

伊勢原市障がい者とくらしを考える協議会

第1回伊勢原市障がい者とくらしを考える協議会

日時 平成30年7月11日（水） 14：00～16：10

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 21名

【主な議題と内容】

1 会長、副会長の選出

会長にすこやか園園長の藤原委員、副会長にみどり園施設長の平田委員を選出、承認。

2 議題

(1) 平成30年度伊勢原市障がい者とくらしを考える協議会の取組及び協議内容について
→ 資料に基づき、事務局から説明。

(2) 各専門部会の取組及び活動報告について

【相談支援部会】 部会長より資料に基づき説明

○相談支援専門員の現状の課題について

一人あたりの相談件数が多く負担が大きい。

市内の社会資源の不足、他市の施設利用も多い

【こども支援部会】 部会長より資料に基づき説明

○放課後等デイサービスの養護学校生徒の利用状況について

養護学校生徒の利用はかなり多い、保護者は養護学校卒業後のサービス利用についての不安が多いので、卒業後のサービスのつながりが重要

【災害時支援部会】 部会長より資料に基づき説明

○災害対応への障がい者家族の立場での取組について

公民館など災害避難場所自体が危ないと思うので、大きな建物などに集約できるような避難場所があればと思う

○市内唯一の入所施設であるみどり園の災害への取組について

入所者の安全確保の研修を行っている

【就労支援部会】 部会長より資料に基づき説明

○今年度の能力開発センターの入校生の様子について

就職は売手市場だが、障がい者に労働習慣が身についていないので定着できない

○ハローワークでの情報提供について

求職者が足りない、精神障害者の雇用率が増えている、会社への出前講座を実施

○障がい者の就労定着支援について

サンシティの登録者は増えており8割が定着支援、アセスメント不十分で定着支援に支障が出ていることもある

【権利擁護部会】 部会長より資料に基づき説明

○障がい者の権利擁護の取組について

やまゆり園において献花台を設置、追悼式等も実施

【精神障がい者支援部会】 部会長より資料に基づき説明

○当事者同士の支え合いに対する取組について

当事者同士の話し合いができる場があることはとても重要

【当事者部会】 部会長より資料に基づき説明

○身障協会からの意見について

協会に入ってもメリットがないと言われてしまう。高齢者が多く役員ができない。後継者がいない。

(3) 第5期障がい者計画・障がい福祉計画・第1期障がい児福祉計画について

→主な変更点やポイントを事務局から説明

○障がい福祉課長より補足説明

拠点整備について、緊急時の受入体制、グループホームなどの居室の確保、医療的ケアの支援をするための看護師の派遣などを検討。相談員の資質確保のため基幹相談支援センターの委託などを検討。

(4) 湘南西部保健福祉圏域自立支援協議会の取組について

→資料に基づき説明

○自立支援協議会で検討したい事例について、相談支援部会長より

医療的ケアの必要な事例の検討をお願いしたい

☆協議会全体を等しての質問、意見等

○相談事業所の数は・・・13箇所

○グループホームの数は・・・10箇所

3 その他

事務局より

「湘南西部保健福祉圏域障害者差別解消支援地域協議会」の事務局を今年度は伊勢原市が担当しフォーラム等を開催するので委員の参加をお願いしたい。

平塚保健福祉事務所秦野センターより

「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業の実施について」資料に基づき説明

次回協議会は、10月5日（金）午後2時～ 2C会議室にて開催

第2回伊勢原市障がい者とくらしを考える協議会

日時 平成30年10月5日（金） 14：10～16：00

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 22名

【主な議題と内容】

1 議題

(1) 各専門部会の取組及び活動報告について

【相談支援部会】 部会長より資料に基づき説明

○部会参加者としての意見

全般的に社会資源が少ないという地域の特徴があるので、居室確保事業や医療的ケア支援事業など推進が必要

○主任相談支援専門員育成について

国研修が来年始まり、その内容を地域に持ち帰り、県で主任相談専門員育成の研修を実施するが、まだまだ先の話

【権利擁護部会】 部会長より資料に基づき説明

○権利擁護に関する意見

津久井やまゆり園に関しての差別解消フォーラムでの講演は、調整が必要なので、別途相談をいただきたい

○部会活動に関する意見

街頭キャンペーンは参加したいと思う、また、虐待防止は、GHの職員向け研修会を合同で開催してほしい

【こども支援部会】 部会長より資料に基づき説明

○子ども家庭相談課の発達相談件数が年々増加していることでの課題について

発達相談の8月末までの新規受理が65件、それぞれの相談に課題があり、継続や新規で年度末には200件ほどになるため、継続フォローの面接頻度が下がっている

○養護学校の切れ目のない支援において、卒業後の進路などの課題について

知的に精神が絡む生徒の行き場に悩んでいる

【災害時支援部会】 部会長より資料に基づき説明

○福祉避難所であるみどり園の課題について

災害が起きた時に機能するよう、他の福祉避難所のすこやか園や地域作業所ドリーム、関係機関と連携を図り支援ができるようお願いしたい

【就労支援部会】 事務局より資料に基づき説明

○能力開発センターの就労定着支援の取り組みなど

企業を対象とした雇用促進セミナーや職安主催の集団就職相談会を実施し、卒業生の96%が一般就労するが、労働習慣が身につけていないので定着できないのが実情

【精神障がい者支援部会】 部会長より資料に基づき説明

○精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業について

秦野市内の精神病院や東海大学の先生などと事例検討をした結果、高齢の親と精神障がいの子、親亡き後の精神障がい者の支援、経済的な面での課題などが見えてきた

【当事者部会】 部会長より資料に基づき説明

○障害者スポーツ大会の当日の様子について

企画の段階から当事者が参加しており、良い活動ができていた

(2) 第4期障害者計画・障害福祉計画について

→事務局より資料に基づき説明

○平成29年度の実績結果について報告

(3) 画第5期障がい者計画・障がい福祉計画・第1期障がい児福祉計画について

→事務局より資料に基づき説明

- 障害福祉サービス等の実績及び見込みについて報告
- (仮)居室確保支援事業について、事業概要・目的、現状と課題、今後のスケジュール等を説明
- (仮)医療的ケア支援事業について、事業概要・目的、現状と課題、今後のスケジュール等を説明
- (仮)児童発達支援センターの設置について、事業概要・目的、現状と課題、今後の対応の考え方等を説明

2 その他

☆湘南西部保健福祉圏域自立支援協議会の取組について

→委員より資料に基づき説明

○前回の協議会で相談支援部会長よりお願いされた「医療的ケアの必要な事例」の自立支援協議会での検討を実施したことで、課題を圏域でも共有し、各委員から医療的ケアの必要性についての意見が多かった

☆伊勢原市自殺対策計画について

→事務局より資料に基づいて説明

☆高次脳機能障害の基礎知識についての研修会の案内

→平塚保健福祉事務所秦野センターより説明

次回協議会は、2月5日(火)午後2時～ 2C会議室にて開催

第3回伊勢原市障がい者とくらしを考える協議会

日 時 平成31年2月5日(火) 14:00~16:00

場 所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 名

[主な議題と内容]

1 議題

(1) 平成30年度相談支援事業について

→事務局より資料1に基づき説明

- ・平成30年度障害者相談支援事業実績状況報告について

○今年度の相談支援の現状について

相談件数は増えている。市外の当事者を受けていたが、市内を主にするようにしている。

事業所やGHを換えたいと言う相談が多い。

(2) 各専門部会の取り組みについて

【相談支援部会】 部会長より資料2に基づき説明

○GSVの開催頻度が多いので継続して実施して欲しい

○4.5年前に作成した福祉マップを最新に更新して、また作成して欲しい

【権利擁護部会】 部会長より資料2に基づき説明

○街頭キャンペーンなどの当事者の活動について

街頭キャンペーンに参加いただきありがたい。就労については、精神障がい者の就労支援が増えているが、支援者不足の課題がある

○虐待防止の研修会について補足があれば

今年度も好評だったので、来年度も引き続き実施していきたい。

【こども支援部会】 部会長より資料2に基づき説明

○部会の活動内容について感想などあれば

養護学校に保護者から事業所の相談等があるので、事業所の紹介などはとても役に立つので、引き続きお願いしたい。

○療育における子ども家庭相談課の役割について

保護者からの発達相談があれば、親子との面談と発達検査を実施し、ふさわしい支援を行政と親子で考えていく。昨年からは心理士、保育士、保健師、言語聴覚士で対応し、関係機関へつなぎ連携しながら総合的に支援している。

【災害時支援部会】 部会長より資料2に基づき説明

○自然災害などに対する取り組みがあれば

社協では、日本気象予報士会から講師を招き、伊勢原市の地形を確認し避難経路の確認などを勉強する。また、被災地へのボランティア活動に対する交通費の支援を行う。

【就労支援部会】 部会長より資料2に基づき説明

【精神障がい者支援部会】 部会長より資料2に基づき説明

○部会の活動について

精神障がい者を支える事業所連絡会で合同新年会を実施し、多くの方に参加いただいたので、来年度も引き続き実施していきたい。

【当事者部会】 部会長より資料2に基づき説明

○部会の活動について意見等あれば

町点検など当事者が多く参加しており、良い活動ができている

《部会全体について質問等あれば》

○権利擁護部会で差別相談件数が2件と報告があるが、相談窓口はどこになるのか、相談窓口の周知をしたらどうか。

→事務局より

差別や虐待の窓口は障がい福祉課になる。毎年相談件数は少ない。

圏域の差別解消協議会でも各市町の相談件数は少ないと報告がある。

○放デイや児童発達支援などどこを選んでいいかわからないと言う保護者の声を聞くので一覧で見る資料があるのはいいと思う。また、ピアのつどいがあるのは、当事者にとっては心の支えになるのではないか。知的障がい者も集える場所が作ればいいのか。

○相談事業所から各サービスに繋がっていくので、事業所の連携や継続的な活動も重要となるので、引き続き皆様のご協力をお願いしたい。

(3) 第5期障がい者計画・障がい福祉計画及び第1期障がい児福祉計画について

→事務局より資料3、4、5-1、5-2に基づき説明

- ・(仮)居室確保支援事業について、事業概要・目的、取組方針、進捗状況を説明
- ・(仮)医療的ケア支援事業について、事業概要・目的、取組方針、進捗状況を説明

・児童発達支援センターの設置について、事業概要・目的、取組方針、進捗状況を説明
○居室確保事業は委託になるのか。

→複数の GH と協定を結び、空き部屋を確保できるようにする。

(4) 湘南西部保健福祉圏域自立支援協議会について

→圏域内の各市町の活動内容の報告と地域生活拠点の整備についての検討、先進事例の報告など。

2 その他

○協議会全体を通して

児童発達支援センターで、不安を抱えた親が一般相談しやすい活動拠点を進めていただきたい。

○事務局より・・・本年度の協議会は最後となるが、任期は2年となるので、来年度も引き続きお願いしたい。就労支援部会長は、定年退職により退任の申出があったので、来年度選任することになる。

企画運営会議

第1回企画運営会議

日時 平成30年6月26日（火） 14：00～16：00

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 11名

[主な議題と内容]

1 各専門部会の取組みについて

※各専門部会からの経過報告

2 第1回伊勢原市障がい者とくらしを考える協議会内容について

日時 平成30年7月11日（水）午後2時～4時予定

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

内容 ・各専門部会の活動報告について
・第5期障がい者計画・障がい福祉計画及び第1期障がい児福祉計画について
・湘南西部保健福祉圏域自立支援協議会について

※今後の取り組みとしては、相談支援部会で事例検討された「医療的ケアのある重度知的障がい者の支援」について報告する。

第2回企画運営会議

日時 平成30年9月25日（火） 14：00～16：00

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 10名

【主な議題と内容】

- 1 第5期障がい者計画・障がい福祉計画及び第1期障がい児福祉計画の進行管理について
※計画期間中は、事業・取組について、PDCAサイクルによる適切な進行管理を行い、庁内関係部局や協議会で定期的に施策の進行状況を把握・点検・評価し、その状況に応じて事業・取組を適宜改善していく。
○居室確保支援事業や医療的ケア支援事業の整備など、基幹相談支援センターを中心とした地域生活支援拠点等の整備を推進する。
- 2 各専門部会の取組みについて
※各専門部会からの経過報告
- 3 第2回伊勢原市障がい者とくらしを考える協議会の内容について
日時 平成30年10月5日（金）午後2時から4時予定
場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室
内容 ・各専門部会の活動報告について
・第4期障害者計画・障害福祉計画について
・第5期障がい者計画・障がい福祉計画及び第1期障がい児福祉計画について
・その他
※協議会内容について確認。

第3回企画運営会議

日時 平成31年1月29日（火） 14：00～16：00

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 10名

【主な議題と内容】

- 1 第3回伊勢原市障がい者とくらしを考える協議会内容について
日時 平成31年2月5日（火） 午後2時～4時
場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室
内容 （1）平成30年度相談支援事業について
（2）第5期障がい者計画・障がい福祉計画及び第1期障がい児計画について
（3）各専門部会の取り組みについて
（4）湘南西部保健福祉圏域自立支援協議会について
（5）その他
※協議会内容について確認。
- 2 その他

相談支援部会

第1回相談支援部会

日時 平成30年4月18日（水） 13:30～15:30

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 35名

[主な議題と内容]

1 情報提供

- (1) 平成30年度相談支援部会の日程と内容について
- (2) 障がい福祉課ケースワーカーの分担について
- (3) 第5期伊勢原市障がい者計画・障がい福祉計画及び第1期障がい児福祉計画について
- (4) 神奈川県障がい者自立支援協議会報告について

※湘南西部障害保健福祉圏域地域生活ナビゲーションセンターより

2 勉強会

平成30年度障害福祉課予算概要について（障害福祉課長より説明）

3 フリートーク会（意見交換会）

6グループに分かれ、テーマを決めずに意見交換を行った。



4 その他

- ・事業所見学ツアーの希望について
- ・平成30年度障がい者とくらしを考える協議会年間スケジュールについて

第2回相談支援部会

日時 平成30年5月16日（水） 18:00～20:00

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 32名

[主な議題と内容]

1 部会長選任

事務局推薦により「つくし相談室 柳田氏」にて承認

2 報告事項

(1) 平成 29 年度障がい者相談支援事業実績状況報告について

- ・相談延べ件数：平成 29 年度 10,476 件（前年度より 2,143 件増）。児童・知的・精神障がい者の相談が増加。事業所が増えない中で、これだけの相談対応をしている状況に、相談員の負担増大が懸念される。

(2) 障害者差別解消法に係わる事例集作成の協力について

- ・湘南西部圏域差別解消法支援地域協議会で事例集作成予定。各事業所に対応した差別に関する相談事例について、提供の協力をお願いします（7～8月頃）。

(3) 平成 30 年度報酬改定に伴う届出書等の対応について

2 相談員等スキルアップ研修 その1

「グループスーパービジョンの手法を使った事例検討」

医療的ケアが必要な、重度知的障がい者の短期入所利用について、6つのグループに分かれ事例検討を行った。重度知的障がい者で医療的ケアが必要なご本人と、遠隔地に住む介護が必要な祖母を抱え、短期入所先が見つからず、焦燥感と絶望感の中で日々頑張っている母親に対して、相談員としてどう寄り添えるのだろうか…。大変重く、切実な事例でした。グループワークは混沌とするかと思いきや、ストレングス（強み）がどんどん湧き出てきます。また、真摯に向き合う相談員へのねぎらいや励ましのコメントも続出。始めは俯き加減の事例提供者でしたが、最後は笑顔が見られていました。グループスーパービジョンの事例検討の凄さを、目の当たりにした時間でした。



社会福祉法人 成和会と医療法人社団 秦和会は、地域に根ざした精神科医療を目指す秦野病院を中心に、医療・福祉・介護サービスを一体となって提供しています。今回は、「心の笑顔」を届けるはだのグループの施設を見学させていただきました。

1 社会福祉法人 成和会 グループホームせせらぎ 見学

【グループホーム：定員9名】

生活の訓練の場として、5年間の有期限としています。食事の提供はありますが、掃除は訓練の一環として、入居者が当番制で行っているそうです。

【短期入所：定員2名】

やすらぎの場として、気分転換・休息のために利用されています。お部屋には、バス・トイレ・キッチンが備えてあり、とても快適です。



2 社会福祉法人 成和会 ジョブライフはたの 見学

就労継続支援B型事業所のジョブライフはたのでは、自動車部品の検品の他、チラシの帯付けなどの作業を行っていました。利用者みなさんは、集中力も高く熱心に取り組まれました。



3 医療法人社団 秦和会 秦野病院ケアセンター

就労移行支援事業所りんく、精神科ディケア、ディサービスくつろぎ 見学

秦野病院ケアセンターの中には、医療：精神科ディケア、福祉：就労移行支援事業所りんく、介護：ディサービスくつろぎの3つが同居しています。

明るくそして機能的に配置された建物内は、良い意味で医療・福祉・介護らしくないデザインやインテリアで、ひとつひとつにこだわりをもった設計となっています。ここに通いたいと

思わせる、大変居心地のよい空間でした。利用者の力を引き出し、次につなげるこのケアセンターは、100歳を越えてもなお現役で精神科医療に尽力されている、高橋理事長の思いが詰まった施設でした。



4 社会福祉法人 成和会 就労継続支援B型 こにこにこパン工房 見学

今回の見学の最後は、こにこにこパン工房へ。厨房の中では、数十種類のパンを製作し、店舗では慎重かつ丁寧にレジ打ちや袋詰めを行っていました。パンの製造・販売を通して実践的な訓練を実施しています。

就労に向けて頑張る利用者さんの思いや、サポートするスタッフの願いが、一つ一つのパンにぎゅっしり詰まっていました。



第4回相談支援部会

日時 平成30年7月20日（金） 10:00～12:00

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 28名

[主な議題と内容]

1 依頼事項

- ・差別解消法 事例シートについて

※事務局より、差別解消協議会において事例を収集することになった。相談の中で、障がい者差別とまでならないものの、日常で起こった困りごとの話しを受けたら、事例シートに記入して欲しい。9月頃回収予定。

2 障害児者の相談支援等について

湘南西部障害保健福祉圏域相談支援ネットワーク会議で配布された資料の説明。

3 相談員等スキルアップ研修 その2

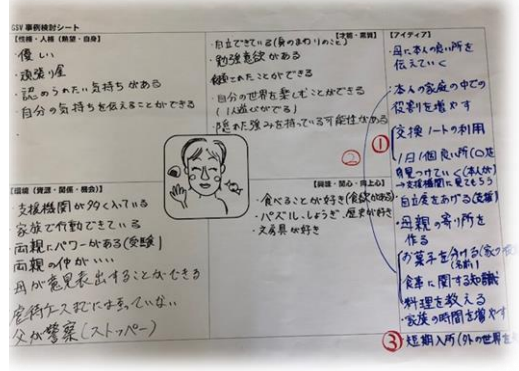
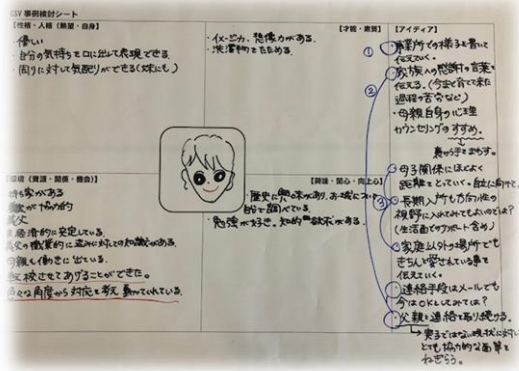
「グループスーパービジョンの手法を使った事例検討」

心理的虐待があると思われる家庭への支援について、4つのグループに分かれ事例検討を行いました。



今回は、知的障がいと指定難病を持つ中学生のケース。本人とご両親それぞれへの支援が必要で、相談員としての立ち位置がとても難しいケースでした。

各グループ本人・家族の良いところ・強みを次々と見だし、すぐにもやってみたい対応策が提案されていました。



第5回相談支援部会（懇親会）

日時	平成30年8月22日（水）	18:30~21:30
場所	しゃかりき	伊勢原店
参加人数	21名	

相談支援事業検討ワーキング（第1回）

日時	平成30年9月19日（水）	9:00~9:55
場所	伊勢原市役所 2階	親睦会和室
参加人数	8名	

【主な議題と内容】

◎地域生活拠点の機能整備に向けた支援体制作りについて話し合いを行う。

1 伊勢原市居室確保事業について

地域で安心して暮らすための支援として、一時的な居室を確保し、緊急一時的な宿泊（家族の入院、虐待等）又は地域での一人暮らしに向けた体験的宿泊を提供する事業の実施に向けての意見交換を行う。

（実施に向けての課題）

- ・ 受入れ施設の事業所登録条件
- ・ 受け入れた際の職員配置。職員の宿泊を義務づけると、利用しにくい事例がでてくる。
- ・ ケースの障がいの程度や状況で、職員配置が2名で対応することも必要。それによって、費用面の積算が異なる。
- ・ 同性介護の対応、人権の確保が必要。
- ・ 預かるという責任が加わる。
- ・ 就業規則や規定を変える必要も出てくる。
- ・ 例えば、親が急に入院して当事者が自宅に一人で心配というケースは、スタッフが自宅に行く方が安心ではないか。
- ・ 当番制にしておくと、部屋や職員の準備がしやすい。
- ・ 体験利用と緊急時の受入れを分けて考える必要がある。

2 伊勢原市医療的ケア支援事業について

看護師配置のない通所施設、作業所、保育園、学校等において、医療的ケアを必要とする障がい（児）者に対して看護師を派遣し医療的ケアの支援を行う事業実施に向けて意見交換。

- ・訪問看護師や医師会と話し合いを行う予定。
- ・緊急時の対応など、医療保険に繋がられるような仕組みとしたい。
- ・指示書の出し方や、複数の訪問看護での対応となる場合の調整も課題。
- ・自宅で訪問看護を利用しているケースで、この事業によって利用の枠が広がるとよい。

（当事者会の集まりなどに参加したい場合、訪問看護師が同行できると参加しやすい）
⇒今回の意見を踏まえ、要綱（案）の見直しを行い、第2回ワーキングで再検討する。

第6回相談支援部会

日時 平成30年9月19日（水） 10:00～12:00

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 29名

[主な議題と内容]

1 勉強会

平成30年度相談支援に係わる報酬改定について

障がい福祉課より、湘南西部障害保健福祉圏域自立支援協議会 第1回相談支援ネットワーク会議内容の伝達、これまで事業所から出された質問内容の共有、実績報告様式等の確認を行う。

2 情報交換

第7回相談支援部会(福祉事業所見学会)

日時 平成30年10月10日（水） 10:30～12:00

場所 福祉事業所見学会

社会福祉法人 至泉会 あけぼの園（児童発達支援センター）

参加人数 27名

[主な議題と内容]

※こども支援部会報告書参照

第8回相談支援部会

日時 平成30年10月26日（金） 13:30～15:30

場所 市役所 2C会議室

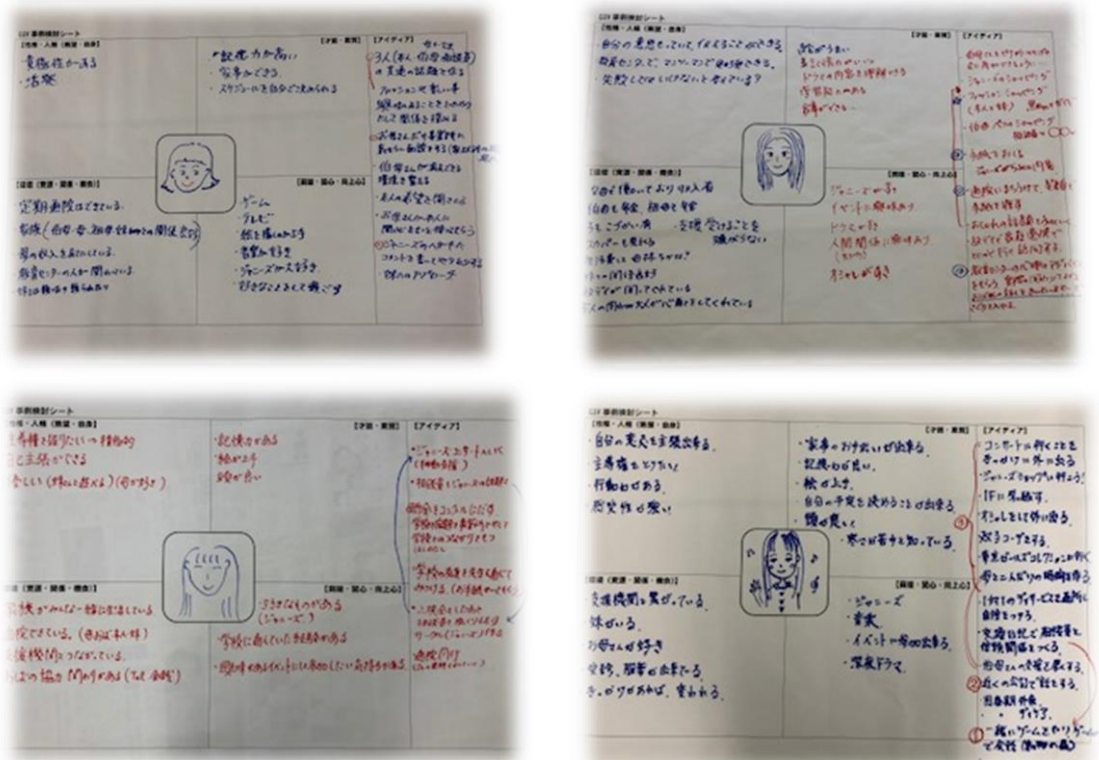
参加人数 24名

[主な議題と内容]

相談員等スキルアップ研修 その3

「グループスーパービジョンの手法を使った事例検討」

不登校児童とその家族との関係について、4グループに分かれ事例検討を行った。



小学5年生の不登校児と、両親・同居する叔母との関係が複雑で、本人支援、叔母支援、母支援と多岐に渡り、方向性を整理することが難しい事例でした。しかし、本人や家族のストレングスを的確に抽出し、支援方針をしっかりと立ててしまう思考の柔軟さに驚くばかりでした。事例提供者の今後の対応に、とても参考となる内容でした。

第9回相談支援部会(冬の懇親会)

日時 平成30年12月12日(水) 18:30~21:00

場所 Bistro ライオン

参加人数 27名

第10回相談支援部会

日時 平成31年1月25日(金) 10:00~11:50

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 25名

【主な議題と内容】

- 1 障がい福祉サービス申請要件について
※事務局より説明
- 2 新規市内相談支援事業所の紹介

3 平成30年度相談支援部会活動の振り返り及び平成31年度の取組について

<相談支援部会の活動>

GSV研修 4回、事業所見学ツアー 2回、勉強会+情報交換会 3回、懇親会 2回、
1年の振り返り 1回 計12回

- ・ GSV研修について
 - ・ 相談支援事業所以外の事業所に出してもらってもよいのではないか。
 - ・ 事前に事例提供の事業所が分かっていると、準備ができてよい。
 - ・ ひとりじゃないと思えたり、視点が広がり良かった。
- ・ 事業所見学ツアーについて
 - ・ 事業所の見学でつながりが出来よかった。
 - ・ 来年度見学希望事業所：ファミリー伊勢原、多機能事業所、能力開発センター、貴志園、児童相談所
- ・ 勉強会について
 - ・ 加算の仕組みについての勉強会
 - ・ 災害時の対応について。
 - ・ 介護保険制度と障がい福祉サービスについて。
- ・ その他
 - ・ フリートークの時間がよい。
 - ・ 学校との連携について検討したい。
 - ・ メンタルヘルスについて
 - ・ 相談支援事業所の説明会の開催（保護者向け）
 - ・ 他市の情報が知りたい。
 - ・ 事業所見学ツアーは、こども支援部会と共同開催を行う。
 - ・ 部会長に出席依頼がある会議が増加している。負担を軽減するための協力を依頼。

第11回相談支援部会

日時 平成31年2月19日（火） 15:00~17:00

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 16名

[主な議題と内容]

1 勉強会

- (1) (仮) 居室確保支援事業について
- (2) (仮) 医療的ケア支援事業について

⇒地域生活支援拠点事業の一環として、平成31年度に実施予定。目的や内容について説明する。

- (3) 伊勢原市児童発達支援センターの設置について
⇒中央保育園跡地の利活用。
2/13（水）福祉事業所向け説明会、2/23（土）保護者向け説明会開催。
4/1～公募開始予定。
- (4) 神奈川県医療的ケア児実態把握調査の実施について
- (5) 相談支援事業所への補助金のご案内
- (6) 障害福祉サービス等情報検索について
⇒（4）～（6）神奈川県からのお知らせを周知
- (7) 湘南西部圏域相談支援ネットワーク会議の報告
- (8) 障がい福祉課ケースワーカー地区担当の一部変更について

2 情報交換会

3 その他

チャレンジデー開催のお知らせ

来年度のGSV事例検討研修 事例提供事業所

レインツリー、ファミリーサポート湘南

残り2回分は、事例提供をしていない事業所で調整する。

第12回相談支援部会

日時	平成31年3月13日（水） 18:00～20:00
場所	伊勢原市役所 2階 2C会議室
参加人数	24名

[主な議題と内容]

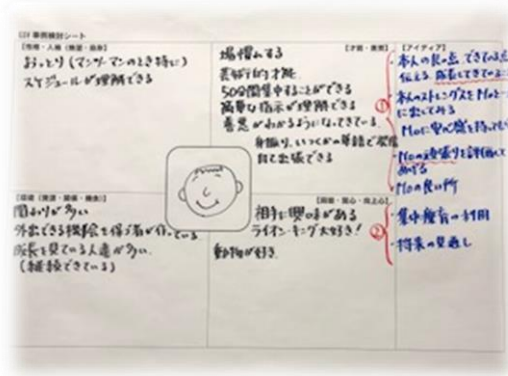
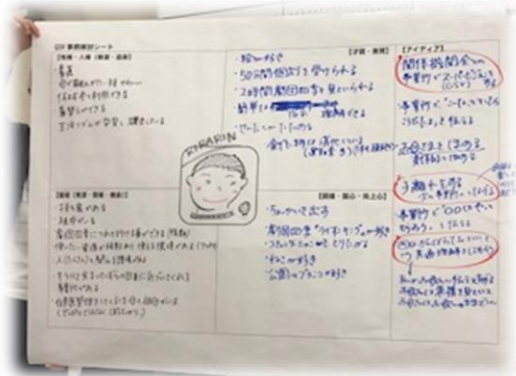
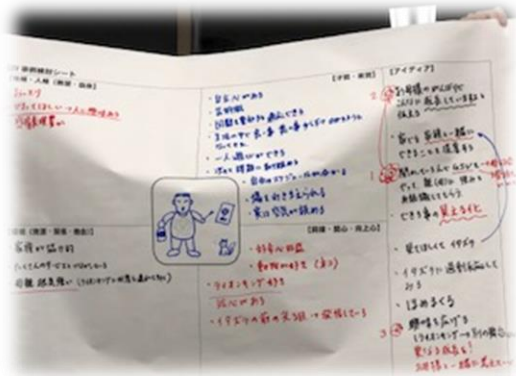
1 グループスーパービジョンの手法を使った事例検討 ④

「15歳、ダウン症児の将来に向けての支援の仕方について」

4月から高校生になる本事例は、理解力が深まり生活の中で良い・悪いの判断が出来るようになり、様々な課題に取り組むことができるようになってきたダウン症の男児でした。卒業後を見据えながら、相談支援専門員として成長の機会を広げていきたいと考えていますが、母はこれだけ頑張ってきたのでこれ以上はできないと感じているようです。本児と母とどう向き合っていけるとよいか、対応が大変難しい事例でした。

各グループからは、母や関係機関と「GSV事例検討」をやる、「ほめる会議」を開催する、母と「ストレンクス出し」をする、「できたノート」を作り喜ぶ機会を共有するなど、なるほど！と思う内容が多く提案されました。1人で考えていると見えないストレンクスが、仲間と話すことでどんどん見えてくるって本当に不思議です。

相談支援部会で重ねてきたこのGSVが、保護者と一緒にできたら本当にいいな…と思った、平成最後のGSV事例検討会でした。



2 その他

・すこやか園からのお知らせ

4月1日から、相談室の名称が変更となります。

すこやか園生活支援センター→しせん相談室

権利擁護部会

第1回権利擁護部会

日時 平成30年5月28日（月） 13：30～15：30

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 6名

[主な議題と内容]

1 部会長選任

事務局推薦により「かでの湘南喜多氏」にて承認。

2 権利擁護部会の取組み経過について

平成29年度の取組みの振り返り

3 平成29年度障がい者虐待防止事業について

虐待件数 養護者：6件、施設従事者：4件、使用者：0件

4 平成29年度障がい者差別相談事業について

2件（知的障がい、肢体不自由）

会社側に言いたいと言えないことが多く、企業側への周知が必要。障がい者の声にならない声をどう拾っていくか？就労定着支援がとても大切になる。

～県域の差別解消の協議会でフォーラムを開催する予定。

5 平成30年度権利擁護部会の取組みについて

（1）社会福祉協議会主催「障害者週間」街頭キャンペーンへの参加

- ・12/4（火）13：00～1時間程度 小田急伊勢原駅北口および南口にて実施予定。
- ・当日の流れや配布方法などを事前に事業所へ送付し、当事者に説明をしてもらっておく。

（2）グループホーム等職員向け研修会・障がい者虐待防止に関する研修会

講師によっては、合同開催してもよいのではないか。緑友会・事務局にて調整。

（3）障がい者差別解消法に関する取組みについて

津久井やまゆり園の事件を風化させないように、津久井やまゆり園園長を呼んで差別解消法フォーラムで開催予定。

6 その他情報交換

- ・障害者虐待対応事例集（神奈川県作成）、障がい者虐待防止パンフレットの配布
- ・当事者部会で体験発表を行う際、権利擁護部会参加してはどうか。
- ・7月6日（金）第2回部会は延期。研修会を別途調整し実施する。

第2回権利擁護部会(障害者週間街頭キャンペーン)

日 時 平成30年12月4日(火) 13:00~14:00

場 所 伊勢原駅 北口・南口

参加人数 38名 (当事者 14名・支援者等 24名)

[主な議題と内容]

障害者週間(12月3日~9日)に併せて、伊勢原駅周辺で街頭キャンペーンを実施しました。伊勢原市のイメージキャラクター「クルリン」と一緒に、市内事業所(10事業所)の皆さんが作った啓発物品とパンフレット700セットを配布しました。18の障がい福祉事業所・団体の参加があり、皆さんからひとつひとつ心を入れて手渡すと、市民の皆さんから素敵な笑顔が返ってきました。

当事者の皆さんが主役になり、直接伝えることが出来るこのキャンペーン、地道に続けていきたいと思います。



第3回権利擁護部会（障がい者虐待防止法研修会）

日時 平成30年12月5日（水） 13：30～15：30

場所 （福）緑友会 みどり園

参加人数 24名 他緑友会職員約30名

[研修内容]

「どうすれば福祉のプロになれるのか」

～ワンランク上の支援を提供する職員になるために心掛けるべきこと～

講師：日本女子大学 教授 久田 則夫 氏

主催：（福）緑友会 みどり園・つくし

共催：伊勢原市障がい者と暮らしを考える協議会権利擁護部会

伊勢原市高齢者及び障害者虐待防止ネットワーク

障がい者の権利を守る福祉のプロに、どうすればなれるのか？

今年度の研修は、日本女子大学 久田教授をお招きし、基本的な考え方や具体的なポイントをお話いただきました。

研修や学習会という学びの場は、行動を起こすためにある！と、私たちの研修に対する意識を再確認することからスタート。地域住民からも、利用者からも、共に働く仲間からも信頼される、すごいステキな職業人となるためにはどうすればよいか、説得力のある講師の説明に、参加者は熱心に耳を傾けていました。

久田先生は、8つの力を持った「人財」になることが求められるとお話されていました。

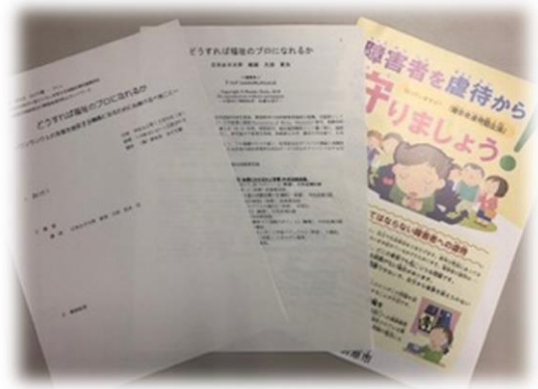
- ①気づき力 ②率先垂範力 ③実現力 ④納得力 ⑤権利擁護推進力
- ⑥権利侵害行為（虐待）抑制力 ⑦ロール・モデル提示力 ⑧モチベーション向上力

この8つの力をもった職員になるために留意すべきポイントとしては、

- ①正しい時代感覚をもって働く
- ②職業人として心のあり方の大切さを正しく理解する
- ③強固な問題意識をもって働く
- ④自分のキャリアに責任を持つ、という姿勢をもって働く
- ⑤クオリティ・マネジメントの推進にむけて行動を起こす ことだそうです。

身近な問題として、「呼称」について話がありました。呼び方を変えると当事者は分からない、さん付けだと冷たい感じがあるなど懸念の声があったのも事実ですが、変えることは案外楽だったそうです。知的障がい者に対して子ども扱いするような対応が、まだ残っていることもあるため、時代の変化や権利擁護を意識し対応する必要があります。

先生が紹介していたマザーテレサの言葉「誰からも見向きされないことも心を込めてやりなさい」が、とても印象に残りました。ワンランク上の支援を提供するために、プロとしての意識・対応が問われます。まず、自分自身が行動を起こすことから始めていきましょう。



第4回権利擁護部会（高齢者・障害者虐待防止ネットワーク研修会）

日時 平成31年1月17日（木） 18：30～20：00

場所 青少年センター 3階 集会室

参加人数 70名

〔研修内容〕

「高齢者・障がい者虐待を未然に防ぐために一人ひとりができること
～事例を通して認知症や知的障がいの基礎知識を学ぶ～」

講師：丹沢病院 院長 関口 剛先生

受講対象者：市民、高齢者及び障害者関係機関・事業所職員等

第5回権利擁護部会

日時 平成31年1月21日（月） 10：00～12：00

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 6名

〔主な議題と内容〕

1 平成30年度権利擁護部会の振り返り及び平成31年度の取組について

①平成30年度権利擁護部会の振り返り

<意見交換>

◆街頭キャンペーンについて

- ・配布方法の案内を開始前に伝えたため、スムーズに配布できた。
- ・予想より早く配布が終了した。
- ・一緒に参加した当事者が上手く出来るか不安だったが、本人の良さが出ており、新たな発見があった。

- ・事業所が作成した啓発グッズを見せるように渡した。
- ・啓発事業は、地道に継続して行うことが大切である。

◆障害者虐待防止法・権利擁護の研修会（みどり園）について

- ・支援者のプロとして、リーダーとしての心がけなど、分かりやすい内容だった。
- ・「呼称」についてなど、身近な話題から、虐待防止や権利擁護を考えることができた。
- ・グループホーム等職員研修としても位置づけていたが、参加は少なかった。単独で開催し、時間帯や内容の工夫が必要。2年前に実施したグループホーム職員向けの研修内容が良かった。

②平成31年度の取組について

- ・「障害者週間」街頭キャンペーンの実施
- ・障害者虐待防止、権利擁護に関する研修の実施
- ・グループホーム等職員向け研修の実施
- ・障害者差別解消法に関する取組の実施

※基本的なことを積み重ねていく。

2 平成30年12月末現在の障害者虐待対応相談件数・障害者差別相談件数について

①障害者虐待相談・対応件数

- ・平成30年12月末までの内訳について事務局より説明
- ・養護者による虐待 2件 重複回答

(身体的虐待1件、介護放棄1件、心理的虐待0件、経済的虐待0件)

施設従事者による虐待1件、使用者による虐待0件

②障害者差別相談件数

- ・平成30年12月末までの内訳について事務局より説明
- ・相談件数は2件 障害者差別 1件:不当解雇について

合理的配慮 1件:各種申込み案内でのFAX番号標記

3 その他情報交換

- ・平成29年度使用者による障害者虐待の状況について（厚生労働省）、平成29年度における（神奈川）県内の障がい者虐待の状況について
- ・各種研修会の案内

こども支援部会

第1回こども支援部会

日時	平成30年5月18日（金） 10：00～12：00
場所	伊勢原市役所 2階 2C会議室
参加人数	17名

[主な議題と内容]

- 1 部会長選任
事務局推薦により「めだかくらぶ 小木氏」にて承認。
- 2 平成30年度障がい福祉サービス等報酬改定について
放課後等ディサービス 指標該当あり 約10名
該当ありのみ受給者証発送。各事業所には、口頭で説明を行っている。
- 3 平成30年度こども支援部会の取り組み
 - (1) 勉強会、事業所見学ツアーについて
 - ・研修内容の希望
アレルギーについて、家族支援について、言葉の発達について、けがの対応、障がいの診断と制度、障がい受容に対する支援、ガイドラインについて等
*次回は、伊勢原市の療育の流れについて
 - ・事業所見学
こども通園センターばあす、アグネス園、あけぼの園、スキップ、おひさま教室、あん、サポート校、クリエイティブ校
後日、事務局にて調整
 - (2) GSV事例検討研修について
 - ・第3回の部会時に事例を決める。
 - ・相談支援部会でも、今年度児童の事業所によるGSVを実施するので是非参加を。
- 4 その他情報交換
 - ・部会長の提案で、最近の出来事で良かったこと、嬉しかったことを各自発表。日々、業務での忙しさや出来ていないことに意識が向きがちだが、参加した部会員全員に笑顔が広がった。

第2回こども支援部会

日時	平成30年6月28日（木） 10：00～12：00
場所	伊勢原市役所 2階 2C会議室
参加人数	19名

[主な議題と内容]

1 勉強会 「伊勢原市の療育の流れについて」

子ども家庭相談課より、「発達に遅れや心配のある乳幼児の発見・相談・支援に関する市のシステム」について、障がい福祉課より「障がい福祉サービス利用の流れ」についてお話ししました。

子ども家庭相談課での発達相談件数が昨年度 163 件と、年々増加しているようです。児童のサービス提供事業所が増加し、サービスを利用するお子さんも増えてきました。福祉サービスにつながるまでの間の、母子保健での健診や健診後のフォロー体制、子ども家庭相談課での療育相談の流れを踏まえて、お子さんの療育を進めていくことが大切です。また、幼稚園・保育園・学校と意見交換ができる場についても必要性を感じている所です。今後も、全体を把握した中で、それぞれでの療育の役割を部会の中で共有していきたいと考えています。



第3回こども支援部会

日時 平成30年10月10日（水） 10：30～12：00

場所 福祉事業所見学会

社会福祉法人 至泉会 あけぼの園（児童発達支援センター）

参加人数 27名

[主な議題と内容]

※こども支援部会、相談支援部会合同で事業所見学会を行い、今回は、「社会福祉法人 至泉会 あけぼの園（児童発達支援センター）」に伺いました。

* あいさつ：三浦園長

* 施設内見学、事業概要説明：伊藤副園長

・ 昭和54年～事業開始

・ 定員：35名

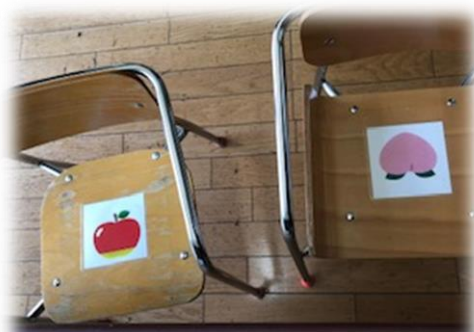
内訳) 年長：10名、年中：15名、年少：10名

男児27名、女児 8名

伊勢原市からは4名利用



- ・日中一時支援（14～17時）：定員 5名
あけぼの園利用の児童のみ対応。
- ・療育手帳所持者：17人（A：6名、B：11名）
身体障害者手帳：2名
- ・診断あり：17名（うち発達障がい：12名）
- ・歩行が不安定な児童：クラスに1～2名
- ・3クラス編成（たんぽぽ、あじさい、なでしこ）
1クラス 11～12名
職員5名（クラス担任 3名、補助 2名）
- ・発達支援の指針
児童発達支援ガイドラインに添って運営
- ・スモールステップ：1人で出来ることが増える→成功体験→自信になる！
- ・対人関係の育ち：一人一人に合わせたコミュニケーション手段を獲得する。
- ・好きな遊びや運動を見つける→好きなことを用いて、苦手なことにトライする。
- ・関連づけ、概念形成、構造化



- ・児童精神科医の助言：各児童に対して1年に1回、医師と保護者で療育の現場を見学し、保護者からの相談や、医師の助言をもらう時間を取っている。スタッフも含めて共有し、療育に活かしている。
- ・発語がない児童：7名程度いるが、増えていく児童が多い。音声言語は出なくても、他のコミュニケーション手段で伝えられるようにしていく。
- ・偏食：親御さんと相談していく。給食を食べなくても提示はする。楽しく食べている様

子を見てもらう。自宅から持参し、園で食べる場合もある。

- 例) 自宅のカレーを園で食べる→園のカレーを自宅で食べる→園のカレーを園で食べる
- ・保護者の見学はいつでも可能で、保護者向けの勉強会や座談会を開催している。給食を毎日 SNS にアップしている。



伊勢原市公式イメージキャラクター
クルリン

一人一人のお子さんのストレングスに着目し、温かい雰囲気の中で、丁寧な療育を行っている様子が、とてもよく分かりました。

児童発達支援センターを実際に見ることで、センターの役割や支援内容が理解でき、今後の支援に活かせるよい機会となりました。

お忙しい中、ご対応いただいたあけぼの園の皆様、本当にありがとうございました！

第4回こども支援部会

日時 平成30年12月20日（木） 10：00～12：00

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 17名

[主な議題と内容]

- 1 平成30年度こども支援部会の振り返りと、平成31年度の取り組みについて
 - ・事業所見学など、部会に現場の職員がもう少し参加できるといい。時間帯の工夫や、参加したい内容や仕掛けが必要。
 - ・教育委員会、学校の先生（普通級）、スクールカウンセラーなど、子ども達に関わる人

にも参加してほしい。

- ・就職に向けて、会社や成人の事業所の見学が出来ると良い。
- ・事業所の情報が知りたい。事業所紹介の時間があるとよい。他市では、冊子があったり事業所説明会が開催されている。
- ・成功体験、うれしかったことの共有ができるとうよい。
- ・情報共有のよい場になっている。
- ・事業所での危機管理について。災害用の備蓄や訓練の実施状況など、それぞれの事業所の対応や工夫が知りたい。3.11では、ガソリンがなく送迎の対応ができず大変だったと聞いている、 など

《31年度の取り組み・案》

第1回：事業所説明会

基本情報の共通フォーマットを作成し、事業所が記入。それをとりまとめたものを当日配布し、発表を実施する。

第2回：命に関わること（防災危機管理）の勉強会

防災、防犯、送迎に関すること（アルコールチェックや免許証の失効チェックの実施）、AEDの訓練など

第3回：事業所見学ツアー

第4回：1年の振り返り

第5回：事例検討

2 児童受給者証更新について

誕生月更新となってから2年経過する。平成31年3月31日で有効期限満了を迎える児童について、12/21（金）更新書類を発送予定。提出期限：1/31。モニタリング、計画案の準備があるため、事業所の協力を依頼。

3 福祉サービスの利用要件について

障がい福祉サービスの申請要件が複雑なため、一覧表にまとめた資料に基づき説明。

4 第5回子ども支援部会（2/28）GSV事例検討について

事例提供事業所の選定：ファミリーサポート湘南

5 その他情報交換

- ・児童発達支援センター開設に向けた取り組みについて
- ・重心専門放課後デイ・ファミリー伊勢原の開設について
8月1日開設。定員5名、看護師、理学療法士（市外事業所と兼任）
送迎あり。
現在は、放課後等デイサービスだけだが、今後軌道にのってから、児童発達支援も実施していきたいとかがえている。
- ・クリエイティブの運営会社が、H31.4月に複合施設を開設。生活介護、介護保険のデイサービス、訪問介護、計画相談支援を実施予定。

第5回こども支援部会

日時 平成31年2月28日(木) 10:00~12:00

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

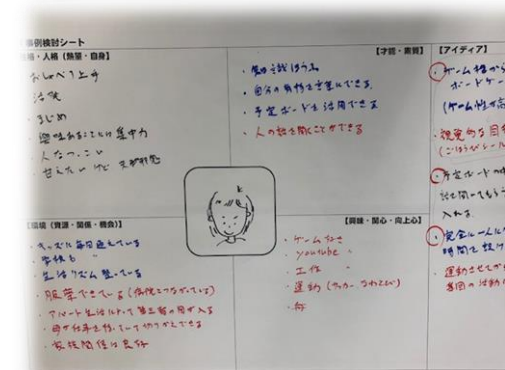
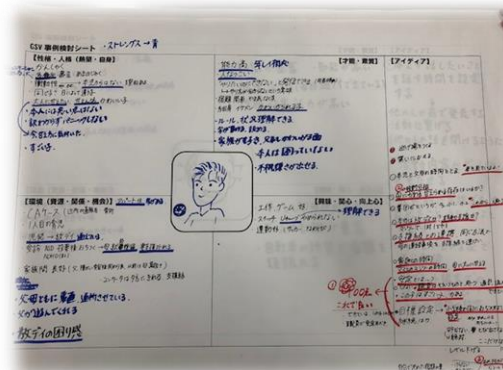
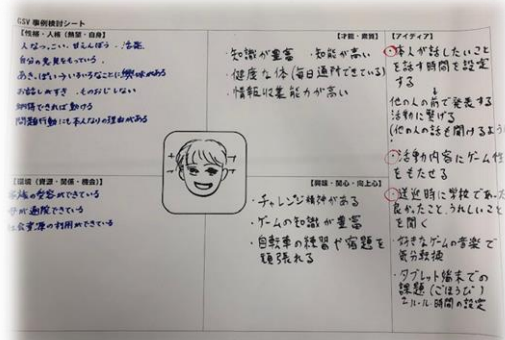
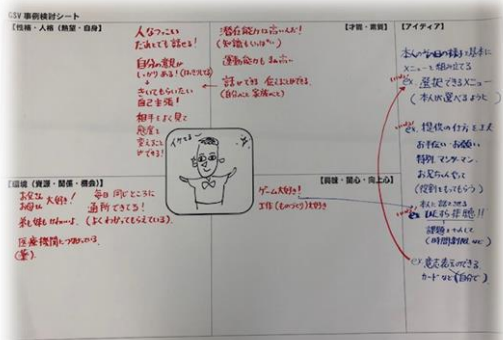
参加人数 24名

[主な議題と内容]

○「グループスーパービジョン(GSV)の手法を使った事例検討」

こども支援部会では、年1回、児童の事例について検討を行っています。今回は、自閉症スペクトラム・ADHDの診断を受けている、能力が高く多弁で衝動性が強い男児について、児童通所事業所職員と相談支援事業所とで事例提供していただきました。相談員の立場、現場の支援員の立場での悩みを共有し、どうしたら安定した1日を過ごせるか、活動的に動けるか、各グループで検討を深めました。

限られた情報の中ですが、沢山のストレングスが出され、具体的な支援方法が提案されました。それらを全員で共有し、事例提供者だけでなく、参加した皆さんの今後の支援に繋がるものになったと感じます。来年度は、現場のスタッフの方々が多く参加出来るように調整していきたいと思います。



災害時支援部会

第1回災害時支援部会

日時 平成30年6月12日（火） 13:30～15:30

場所 伊勢原市役所 2C会議室

参加人数 12名（内当事者参加 6名）

【主な議題と内容】

1 部会長選任

事務局推薦により「地域作業所 ドリーム 小淵氏」にて承認

2 平成30年度災害時支援部会の取組みについて

(1) 地域における障害者理解への啓発活動の実施

① 社会福祉協議会主催「こども防災講座」への参加について

日時 7月31日（火）午前8時30分～正午（予定）

場所 大田ふれあいセンター及び南分署

対象児童 石田小学校

体験コーナーの内容

子ども防災講座について社会福祉協議会より説明。

- ・「盲導犬のお話」「ミニ手話講座」は、当事者に協力をお願いしたい。
- ・これまで精神障がいの内容が入っていなかった。講座の最後に、当事者が話しをする時間があるので追加する。
- ・「車椅子乗車体験」「視覚障害者の誘導体験」は、会場の移動時に実施。
- ・「卵の殻でのガラス体験」「少ない水での洗濯体験」は一つにまとめる。
- ・その他、「はしご車乗車体験」「ポンプ車放水体験」を実施する。

当事者参加予定

視覚障害者 2名、肢体不自由 1名、聴覚障害者 3名

② 総合防災訓練への参加について

日時 8月26日（日）8:30～12:00（予定）

※会場、訓練内容については、参加していない地域を考慮し防災課と事務局で調整

※これまで部会で参加した会場

比々多小学校、伊勢原高校、成瀬小学校、竹園小学校、山王中学校、大田小学校

(2) その他の取組みについて

① 「神奈川県総合防災センター」見学会の実施（日程は後日調整）

3 その他情報交換

- ・各施設での防災訓練の実施状況について

第2回災害時支援部会(子ども防災講座)

日時 平成30年7月31日(火) 8:30~12:00

場所 大田ふれあいセンター・南分署

参加人数 講座参加者(小学生、未就学児及び保護者) 19名
障がい当事者 6名、部会員・手話通訳・障がい関係スタッフ 7名
社会福祉協議会関係スタッフ 約15名

[主な議題と内容]

(1)「障害者に対する支援のコツ」について



障がい福祉課職員より「災害が起こったとき障がいのある人への支援の仕方について」のパンフレットを用いて障がい別の対応について説明。

(2)「災害が起こると困ること」について、消防本部 警備一課 救助係による講話



いつ起こるか分からない災害、準備しておくことについて、わかりやすく説明していただきました。

(3) 各グループに分かれ体験を行う。

■卵の殻でのガラス体験・車椅子体験



卵の殻でのガラス体験、みんな痛い！イタいと大声をあげながら歩き、ガラス体験を行いました。

車椅子は、実際乗ってみると、曲がりにくかったり、坂や段差が大変なことに気づくことができました。

■盲導犬利用者のお話



視覚障がいの方が、災害時にどんなことに困るのか、具体的にお話していただきました。また、盲導犬は障害物を知らせて安全に歩くことが出来るように誘導してくれますが、道案内は出来ません。困っている時には、周りの方が是非、ユーザーに声をかけてください。

■ミニ手話講習会



手話であいさつしたり、自己紹介をしました。はじめは難しそうな表情でしたが、やってみると楽しくなり、上手に手を動かしていました。手話が分からなくても、身振りや文字を書いて知らせることが出来ることを学びました。

■はしご車乗車・放水体験

水の勢いに身体を支えるのが大変だったり、はしご車の高さに驚いたり、貴重な体験ができました。



■ふれあい交流

視覚障がい、聴覚障がい、精神障がいの方より、それぞれ災害が起きたときに困ること、支援の仕方などについてお話していただきました。精神障がいの方からのお話は、今年度はじめてでしたが、みなさん熱心に耳を傾けてくれました。



第3回災害時支援部会(総合防災訓練)

日時 平成30年8月26日(日) 8:30~12:00

場所 桜台小学校

参加人数 【桜台小学校】

約300名 (内災害時支援部会より1名、当事者4名、手話通訳者2名、ガイドヘルパー1名、いせはら介護支援専門員協会10名)

[主な内容]

今年度は、桜台小学校でのプラスワン訓練において、「要援護者支援訓練」を実施しました。

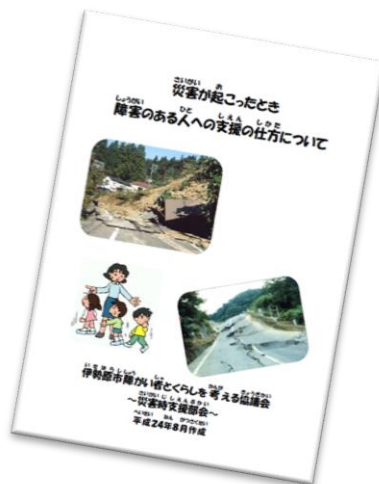
○放送内容の文字化

訓練の内容はマイクや拡声器を通して伝えられます。しかし、難聴者やろう者には聞こえないため、文字化する必要があります。昨年度に引き続き、伊勢原介護専門員協会と役割分担をし、要約した内容を模造紙に書き出し、体育館壁に貼りました。



○要援護者訓練

- 1 障がいがある人への支援の仕方について
障がい福祉課よりパンフレット「災害が起こったとき障害のある人への支援について」を配布して、説明を行いました。
暑い中でしたが、みなさん熱心に耳を傾けてくださいました。



- 2 視覚障がい（盲導犬）について
盲導犬ユーザーの視覚障がい者から、盲導犬と一緒に避難所で過ごす際の注意点や対応方法についてお話をいただきました。



- 3 視覚障がい者の誘導訓練
視覚障がい者の方の誘導体験を、2名の方にお願しました。今回は、小学校低学年の男の子が積極的に手を挙げてくれました。子どもでも出来る支援があることを、伝えることができました。



- 4 聴覚障がい者について
聞こえない方への声のかけ方について、寸劇を交えながらお話ししました。手話ができなくても、身振り手振り・口話・筆談・空書（空中や手のひらに字を書くこと）などで、諦めずに伝えて欲しいと、お願いしました。



5 肢体不自由者からのお話（電動車いす利用者）

車椅子を使用する場合、がれきなどで避難所に移動することが難しい場合があります。日頃から、迂回路など確認が大切です。また、電動車いすは障害者自身の体重を加えると150キロほどになり、段差や階段で持ち上げることがとても大変だとのお話がありました。



第5回災害時支援部会

日時 平成30年9月12日（水） 10:00~12:00

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 12名

[主な議題と内容]

1 平成30年度子ども防災講座、総合防災訓練の振り返り

①子ども防災講座

◎社会福祉協議会より実施状況について報告

- ・講座参加者は、小学生13名、保護者8名、未就学の兄弟3名。参加申込み者が少なく、子ども会へも案内を行った。低学年の場合、保護者の同伴が必要であったり、児童コミュニティを申込み済みのケースもあり、参加しにくい可能性あり。
- ・参加者アンケートでは、ほとんどの方から参加して良かったとの回答。

◎当事者からの意見

- ・防災と障がい者理解両方の目的があり、これからも続けて欲しい。
- ・盲導犬のことや障がいについて知ってもらう機会になる。
- ・子ども達との交流が少し足りなかった。
- ・精神障がい者が初めて参加。精神障がい者が参加していくことに難しさあるが、伝えていく必要性は感じた。
- ・子どもも参加したが、体験によってイメージが膨らんでいた。
- ・何かの催し物とコラボしてはどうか。

2 総合防災講座の振り返り

- ・自治会で災害時の障がい者への配慮について知ってもらう機会になる。市と一緒に入ることで話しやすかった。
- ・今回は時間的な余裕がありよかった。しかし、持ち時間は30分のため、内容が収まる様に整理が必要。
- ・自治会で、要援護者に防災訓練の案内や事前アンケートが配布された。他の地域ではどのような対応がされたか？

- ・福祉電話のブースにいた方が、聞こえない人はどうするのか？と声を出してくれる方がいた。
- ・精神障がい者であると伝えることで、どう言われるか分からないという不安がある。
- ・ビブスは、不織布の方が風通しがよい。
- ・黄色いハンカチで作成したビブスを着用した（聴覚障がい）。「手をかしてください」と書かれているため、視覚障がい者と勘違いされた。
- ・訓練を続けながら、周囲のイメージを変えることが大切。
- ・声でのお知らせは必ず文字化して欲しい。紙やペンなど、書く物を避難所に設置して欲しい。
- ・寸劇を行い、分かりやすく伝える工夫を行った。

3 神奈川県立防災センター見学の実施について

昨年度見学を実施。今年度も開催の希望があったが、調整が困難なため次年度以降に変更。11月に当事者部会で伊勢原市内のまち点検を行う時に、災害の視点も併せて実施してもらうこととする。

【次回予定：平成31年1月17日（木）10時～12時 市役所2C会議室】

第7回災害時支援部会

日時 平成31年1月17日（木） 10：00～11：30

場所 伊勢原市役所 3階 第2委員会室

参加人数 7名（内当事者1名）

【主な議題と内容】

○平成30年度活動報告及び平成31年度の取組について

<平成30年度活動報告>

- ・第1回災害時支援部会、子ども防災講座、総合防災訓練について報告

【子ども防災講座について】

- ・伊勢原災害ボランティアネットワークの取り組みとして、平成21年度より実施。災害時、子ども達が自分のことは自分で守ることができる、障がい者の支援をはぐくむことを目的に、平成25年度からは部会の協力を得ながら開催。昨年度、市内小学校を一巡。今年度、申込者が減少。現状のやり方では継続は難しいとの判断で、次年度は廃止。今後は、親子で参加できる研修などを企画し、全市的に声掛けを行う。

【総合防災訓練について】

- ・車いすや視覚障がい者が災害時、地面の凸凹、普段と大きく状況が変化することで避難できなくなる。自宅から避難所への移動の支援、避難経路の確認の訓練を実施したい。
- ・要援護者支援の制度はあるが、十分機能していない状況がある。隣り近所の方が手を貸してくれることが大切であるので、講話の内容に加えていく。

【当事者部会で実施したまち点検について】

～災害の視点で出た意見～

- ・歩道の狭さや点字ブロックがない場所があり、避難時は移動の困難さが予想される。
- ・北口に、広域避難所の看板が設置されているが、地図が簡略化しすぎて分からない。

<平成31度の活動について>

- ・当事者部会より、「リニューアルした神奈川県総合防災センターの見学」希望あり。
- ・こども支援部会より、各事業所で実施している防災対策の情報共有を災害時支援部会と共催で実施したいとのこと。
各部会と実施の方向で調整する。
- ・「総合防災訓練」を継続して実施する。

<意見交換>

- ・事業所での緊急時の連絡網について
- ・発電機など機器の点検について

就労支援部会

第1回就労支援部会

日時 平成30年6月19日（火） 10：00～12：00

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 14名

[主な議題と内容]

1 部会長選任

事務局推薦により「神奈川能力開発センター大木氏」にて承認

2 伊勢原市における障がい者就労支援事業について

事務局より説明。就労移行支援では精神障がい、就労継続支援B型は知的障がいの利用者が前年より増加。

3 平成30年度就労支援部会の取り組みについて

(1) 障害者雇用促進月間（9月）の取り組みについて

テーマや講師等についての提案

- ・企業の参加が少ない。福祉事業所の参加が多く、焦点をどこに当てるか迷う。
- ・現在、企業側の求人は沢山あるが、本人に意欲がなかったり就労できるまでに至っていない。働いている様子を見てもらい、やる気をつけてもらえないか。
- ・障がい者を雇用することは、生産性以上にもたらす効果・価値があることを伝えたい。
- ・中小企業で障がい者雇用している企業から、話しをしてもらえると、我が社でも思ってもらえるのではないか。
- ・スタンレーの会長は、分かりやすいお話をしていただける。部会長より打診してみる。
※詳細は、部会長と事務局にて調整する。

(2) 企業・事業所訪問について

- ・昨年度、当事者と一緒に企業訪問したことで、就労意欲が増した。今年度も一緒に参加できる企業で実施したい。

(3) 「いせはら就労にゆーす」の発行について

- ・年2回の発行は、今年度も継続したい。事務局が中心で作成しているが、部会員の協力もお願いしたい。

(4) 伊勢原市役所における障がい者インターンシップ事業の実施について

- ・昨年度の実施なし。
- ・市役所が委託している業者でのインターンシップができるとよい。掃除、植木、図書の整理など。

(5) 勉強会について

- ・就労支援を行う中での疑問を部会で出し、部会員同士で工夫を出すなど情報交換してはどうか。次回、出欠票と一緒に質問を送付する。

(5) その他情報交換

- ・就労定着支援が開始されたが、遠方の企業に就労した場合、支援に時間がかかる、事業所の移行も難しく課題を感じる。
- ・就労移行やB型事業所などで生活の立て直しが必要なケース、手帳を持っているからすぐに就職できていると考えているケース、高学歴の知的障がい者で理想と現実にギャップがあり対応が難しいケースなど多様になっている。
- ・就労の希望と、本人の集中力など現状の能力が折り合わないことがある。
- ・障がい者雇用を希望する企業は多くあるが、そこに繋がるようにケースをどう育てていくかが課題。
- ・企業側に、就労継続の支援をバトンタッチできるといいが、システムとして構築されていないため善意にすぎるしかない現状がある。 等

第2回就労支援部会

日時 平成30年8月3日（金） 10:00～12:00

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 11名

[主な議題と内容]

1 勉強会

～現場のお悩み解決！Q&A「みなさん、こんな時どうしてますか？」～

今回は、各事業所から「こんな時どうしてますか～？」を出していただき、2つのグループに分かれて知恵を出し合うという勉強会を開催しました。

沢山のお悩みが出されましたが、3つの内容を話し合いました。

Q 利用者同士の男女関係などプライベートを何処まで許していますか？（電話番号交換？メール？）大きなトラブルになっていないけど心配。どこまでルール付けするか？利用者同士の交流も増やして欲しい。

A・トラブルになってから対応。困らないと分からない。

- ・気がついたら交換している。（交換）するなどは言わない。
- ・携帯、メール、SNS～就職すれば使うツール。マナーの一環として考える。
- ・自己責任だと伝え、使い方を学ぶ。上手く使える方法を一緒に見いだす。

使わない時間、充電はリビングで、言って良いこと悪いことなど

- ・docomoのHPに障がい者向けのアドバイスが掲載されている。
- ・事業所全体で禁止していた。すると、約束を守れなかった利用者が怒られると思い相談できず、問題が大きくなったことがあった。
- ・友達が少ないケースは、LINEグループに入っただけで嬉しい。
- ・褒めるときは、LINEを使っている。

- ・グループで繋がっていて、みんなでという意識が強いのか、以前に比べ1対1の男女間の進みが遅くなった。
- Q 完成度の高い商品（値段も出来るだけ高く売りたい）の場合、職員はどこまで手を出していますか？工賃アップさせなければいけない。
- A 何を求めるか？障がい者が作った物として売なのか？そうではないのか？スタッフが頑張らなければならないといけない物を作るのはどうなのか？
 - ・あくまでも、利用者が作れる物で考えている。
 - ・作業分業し、みんなで出来た感を出す。それぞれが出来ることをやる。
 - ・最終チェックと手直しはスタッフが行っている。
 - ・事業所の存続、工賃アップを考えると、職員が係わる必要がある。
 - ・サポーター制度を実施～地域の高齢者が得意なことを教えてもらったり、手伝ってもらっている。
- Q 就Aを行う時に、利用者の能力格差が事業の生産性に与える影響が大きい。賃金差はほとんどないため、待遇面での不公平が生じている。
- A 福祉と労働。介護施設でパート勤務者と障がい者の能力の差と賃金の問題が、生じている。一般企業も、能力差の問題はある。
 - ・単独でやっているA型事業所は、経営がかなり厳しい。訓練給付金は給料に充ててはいけないと言われているが、補填している事業所は多い。
 - ・働く時間で差をつけている事業所もある。

就労支援を行う事業所では、様々な悩み・課題を持っていることがわかりました。事業所間で知恵を出し合ったり、共感しあったり、有意義な時間を持つことができました。残りのお悩みは、次回の部会で話し合うことになりました。

就労支援部会(障がい者雇用促進セミナー)

日時	平成30年9月26日（水） 14:15～16:15
場所	能力開発センター
参加人数	企業関係者 24社30名、福祉関係事業者 2名(クロスワーク・ドリーム)、 教育関係者 1名(平塚養護学校) 計 33名

[主な議題と内容]

今年度の障がい者雇用促進セミナーは、厚木公共職業安定所主催の能力開発センター見学会に合わせて開催した。

障がい者雇用セミナーでは、株式会社スタンレーウェルの取締役社長三橋様をお招きし、「障がい者雇用を進めるために」をテーマに、企業の視点での御講演をしていただいた。

〇あいさつ

- ・厚木公共職業安定所所長

- ・職業訓練法人神奈川能力開発センター次長
- ・伊勢原市保健福祉部障がい福祉課

1 能力開発センターの施設見学・事業概要説明

○3 班に分かれ、教室、作業場等校内を見学。

○2 年生で3 コース（総合加工技術コース、施設管理技術コース、物流販売技術コース）に分かれるが、希望が偏った場合は、第1、第2 希望を出してもらっているため、調整している。

○定着支援は、月1 回家族または修業生が集まるため、その時に確認している。また、修業生には往復はがきを送付している。

2 障がい者雇用を進めるために

～株式会社 スタンレーウェル 取締役社長 三橋 泰夫氏～

○スタンレー電気（株）の2 番目の特定子会社。28 名の従業員がおり、知的障害者18 名中、11 名が重度障害者である。新卒採用はなく、6～10 月の入社が多い。

業務内容は、自動車電球の包装業務、自動車部品、電子部品の組み立て業務等。

○詳細で明確な「行動指針」（朝は10 分前に門に入る、お金の貸し借りをしない等）を何度も繰り返し指導することで社員に腹落ちするまで伝えている。

○なぜ働くのか、どうして働かないと行けないのか、自分の言葉で、働くための目標を持たせることが大切。また、自分の病気を知っているか、自分の調子の良さに自身で気づけるか、主治医がいるかということも大事である。

○企業の求める人材を育てるためには、自主通勤ができること、遅れる時に連絡ができること、行って良い子と行けないことの判断ができることなどがあげられる。

仕事をする時に、自分の思い通りにならないことが世の中には必ずあることを分かることや仲間意識（戦友）を持って協力できるよう支援する。

○社員の目線で仕事を見ることができるよう、最低2 か月に1 回提案するよう指導。案件は1 件につき、200 円支払っており、月25 日に現金で200 円を渡している。

改善提案を出せるためのヒントやきっかけを作っており、作業の工夫点、治具の開発に注力している。

○支援機関には、挨拶・返事・報連相ができること、分からないことを質問すること、自分のやった仕事にお金が払えるか考えさせること、自ら積極的に人と協力できること、時間の概念を持つこと、社会人のマナー・エチケット・ルールが守れるようにすることを望んでいる。

○企業での障がい者雇用を継続するためには、障害特性を見極めた仕事の提供、者印の責任分野を作ること、きちんと褒めること、全ての理由を明確にして例外は作らないこと、見守る余裕を持つこと、ネガティブな言葉を使わないこと、障がい者社員を指導員一人に任せないようにしている。

なぜ働くのか、本人が仕事をする意味を明確にすること、会社のルールを腹落ちさせること、見守りながらも繰り返しの経験を重ねることのできることを増やしていくことが、退職者がでず長期就労継続している理由であると感じました。

実際に障がい者を雇用している方の話しを、企業の方々に聞いていただける機会が設けられ、参考にさせていただきたいと思いました。

第3回就労支援部会

日時 平成30年10月22日（月） 14:00～16:20

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 11名

[主な議題と内容]

1 勉強会

～現場のお悩み解決！Q&A「みなさん、こんな時どうしてますか？」Ⅱ～

前回各事業所から提出していただいた「こんな時どうしてますか～？」が複数あったため、前回に引き続き3つのグループに分かれて勉強会を開催しました。

沢山のお悩みが出されましたが、今回は下記の3つの内容を話し合いました。

Q. 利用者（聴覚過敏）のイヤフォンから音漏れについて。注意するとその方の安静を阻害してしまうと思い、なかなか言い出せない。

A・作業中の音楽を許可すると他利用者も同じことをしたり、作業に集中できるためと良いアメやガムを食べるなど影響してしまうことが考えられ、許可していない事業所がある。

- ・イヤーマフや耳栓など代替えが可能か、イヤフォンの必要性を検討する。
- ・本人に許可を得た上で利用者にも使用している理由を伝える。
- ・移行支援事業所ではイヤフォンの使用を認められず、耳栓にしたケースがある。急に伝えると本人の混乱になるため、モニタリング等の振り返るタイミングで伝えて行く。
- ・使用の仕方が今後本人のトラブルにならないよう、電車や集団生活など社会のマナーやルールとして伝えていく。本人のリスクとして難聴の恐れもある。
- ・今後就労を目指す上で、イヤフォンを付けてできる職場はなく、耳栓も安全管理のためなるべく使用がない方が望まれる。

Q. 若い利用者様の作業への心構え、仕事への意識付けについて。就職したいと話されるが、作業のモチベーションが低い。

A・工賃でメリハリを付ける。

- ・就労を目指す人が多い刺激を受ける環境か通所継続者が多いかなど環境も影響する。
- ・企業ではまず医療機関受診を促す。治療の必要がないケースでは、トイレの回数データをまとめ、本人と共有して驚かれたことがある。家族を含めた振り返りをする。
- ・就労＝作業のイメージがついていない。しかし、“就労したい”と言える強みがあるため、発言と行動が伴わない人は成果が見えるように“見える化”している。また、就職するためには何が必要かはっきりと伝えることもある。

- ・支援者が就労したいと思っていることをストレングスとして捉えていることを本人に伝え、本人に意識してもらうことも良いのではないかと。
 - ・自分の仕事が他の人に必要とされていると感じ、やる気が育ってきているケースもいる。
 - ・モチベーションが低い状態で通所していると、他の利用者に影響が出る。合同面接会に行き、雰囲気を感じてもらい、刺激を受けてもらう。1週間程やる気が持続することがある。
- Q. 就労移行支援を利用し日課は問題なくこなせる反面、対人面でのストレス耐性に弱い状況
 ストレス解消のための愚痴を本人は言っているだけのつもりだが、個人を攻撃する誹謗中傷、暴言に近い内容となっている。将来の就労にそなえて適切なコミュニケーションやストレス発散方法を身につけたいがアプローチが難しい。
- A. 感情のコントロールが課題である。就Bにて訓練することも良いと考えられるが、本人や母は納得できないと思われる。
- ・女性職員が褒めたところ、泣き出したエピソードがあり、褒められることや認められることが少なかった可能性がある。行動も周囲の反応を試しているのか。
 - ・母が本員に今まで頑張ってきたことを褒めてあげられると良い（関係性から困難か）。
 - ・職親のように、厳しいが優しい人の元で仕事を体験できるとよい。
2. 企業見学会について
- ・平成28年度は11月29日に（株）アマダプランテックへ見学。
 - ・平成29年度は2月27日（株）LIXILビバスーパービバホーム厚木南インター店へ、初めて当事者13名一緒に見学を行った。
 - ・今年度は就労についてイメージのない方も多く、現場を見せてあげたいため、利用者同行可能であれば行ってみたいと希望があるため、開催予定とする。会社は（株）スタンレー本社への見学が可能であるか、能力開発センター大木氏に確認していただく。
 - ・情報提供にて、派遣会社がビニールハウスで農業を実施。企業に場所を提供する事業が展開されている。注目している大手企業も多いため、今後見学に行けるよう調整する。
3. その他
- ・精神障がい者を支える事業所連絡会主催の講演会12月1日「家族のかかわり方」をご案内。

第4回就労支援部会

日時 平成31年1月16日（火） 10:00～12:30

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 10名

[主な議題と内容]

1 平成30年度の振り返り及び平成31年度の取組について

〈企業視察について〉

- ・平成30年1月に実施する企業視察のパイロットコーポレーションは、能力開発センターの卒業生が11名就労している。企業秘密のため大人の見学は受け付けていないが、福祉事業所職員であることから見学の許可をいただいた。

- ・ 昨年の企業視察で利用者も一緒に見学することで就労の意識を強く持ったり、就労のイメージが付き拒否していた施設外就労に参加する方がいたり、見学をきっかけに良い繋がりができたなど好評のため、次年度も開催したい。

〈事業所お悩みQ & Aについて〉

- ・ 現場の実例が分かり、他事業所でも苦労していることを共有できた。
- ・ 支援する中で身近な疑問を考える機会になったり、他者の意見を聞けて良い。今後も継続していきたいとの意見が多かった。
- ・ 悩みを共有できて安心するが、中々決定打が出ない。深掘りできる時間が取れたり、時間がかかっても解決できると良い。内容を見直しても良いのではないか。
- ・ 若い支援員の離職が多いため、悩みを共有し解決の方向に導く工夫ができるとよい。

〈雇用促進セミナー／部会について〉

- ・ 就労支援は一般就労、A型、B型と広い。セミナーの目的、あり方、対象者を見直す。
- ・ 最低賃金は上がっているが、就労継続支援B型の工賃は変わらない。平均工賃1万5千円であり、事業所としてどう上げていくと良いのか、先駆的に行っている事業所の見学や、講師として講演会を開いてはどうか。

○平成31年度の取組について

- ・ 障害者雇用促進セミナーの実施（事業所運営〔利用者確保、工賃向上など〕、職員の支援能力向上、利用者の就労への意識付けなど対象者や開催目的を絞る）
- ・ 企業等訪問（利用者も希望があれば参加可とする）
- ・ 「いせはら就労にゆーす」の発行
- ・ 障害者インターンシップ事業の実施
- ・ 小グループに分かれて情報交換・悩み相談
- ・ 勉強会の実施（企業の現状について等）

2 その他

- ・ 大木部会長が平成31年3月末にて定年退職。任期途中ではあるが、部会長の退任の申し出あり。次期部会長を来年度選任する。
- ・ 利用者が通所先の選択肢を分かり安いように、市内の事業所マップを作成する。
- ・ 一般企業も障害者雇用をすることで、仕事の入札に企業が参入する。仕事を確保できないと、利用者の工賃支払いができなくなるため、コストダウンして仕事をもらうが、工賃アップは困難になる。仕事が確実に取れないと、サービス提供が出来なくなるのではと懸念。
- ・ 就労すると利用者が減少する。養護学校卒業生の通所利用が減っている。通所者確保の問題も感じている。
- ・ 保護者は20代を過ぎると、就労できないイメージを持っている。保護者の就労イメージのギャップに行政からアプローチしてもらえると良い。
- ・ 就労支援部会に、多くの事業所が参加してもらいたい。年間スケジュールを予め提示したり、魅力ある充実した部会の実現のため、今後もみんな協力していく。

精神障がい者支援部会

第1回精神障がい者ピアのつどい

日時 平成30年4月15日（日） 13:30~15:30

場所 伊勢原シティプラザ 3階研修室

参加人数 8名（内当事者 4名）

<平成30年度開催予定>

	開催日時		場所
第1回	平成30年4月15日(日)	13:30~15:30	伊勢原シティプラザ (3階研修室)
第2回	6月17日(日)		
第3回	8月19日(日)		
第4回	10月21日(日)		
第5回	12月16日(日)		
第6回	平成31年2月17日(日)		

[主な議題と内容]

1 語り合い

○今回のテーマ

①生活習慣を改善するために今できることは何か

- ・改善しようと思っても出来ない。基本的に無理に改善しない。
- ・病状に合わせる。社会規範は後回し。
- ・快適に合わせる。身体によい、悪いではなく、残りの人生を楽しむ。
- ・衰えに合わせる。病状や快適さに合わせる。
- ・疲れたらすぐに寝る。
- ・美味しいと思わないと、栄養にならない。
- ・食べ過ぎない。間食を控える。野菜を多く摂る。
- ・寝る前に好きなことをして切り替える。翌日に持ち越さない。

②今後自分がやってみたいこと

- ・「楽会」：人と会うことを楽しむ。
- ・「楽老」：変化を楽しむ。今までと違う自分に出会う。今まで登ってきたところに戻る訳ではない。いかに下り坂を楽しむか。先のことを考えると心配になってしまう。
- ・スカイダイビング~今の自分には絶対出来ないこと。ふわ~っと浮いていたい。
- ・サッカー、バンジージャンプ、スキューバーなどやったことがないこと。



- ・チェロ
 - ・隔たりのない世界を作りたい。
- 次回のテーマについて
- ・趣味について
 - ・なくなったら困るもの ベスト3



第1回精神障がい者支援部会

日時 平成30年5月11日（金） 13：30～15：30

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 7名

【主な議題と内容】

1 部会長選任

事務局推薦により「そよ風ハウス 綿貫氏」にて承認

2 平成30年度精神障がい者支援部会の取り組みについて

○家族サロン 年3回実施

- ・母親が参加し、息子が通所に繋がったケースあった。
- ・運営を手伝ってもよいと言っている参加者がいる。
- ・当事者と話す会は、よかったとの声から参加者からあったので、継続して実施する。

第1回 福祉制度について、語り合い

第2回 当事者と話そう（そよ風ハウスの当事者2名を予定）

第3回 語り合い（市内事業所家族会 合同開催）

○ピアのつどい 年6回 偶数月 原則第3日曜日 場所：伊勢原シティプラザ

- ・昨年度、つどいの目的を整理し、内容が安定してきた。
- ・対象者も定着してきているし、新規参加もあるし良い状態。

2 その他情報交換

○家族サロンの運営について

「伊勢原市精神障がい者事業所連絡会」での運営の方向で検討。

○研修会について

伊勢原市精神障がい者事業所連絡会で、今年度発達障がいをテーマに開催予定。当部会も共催として実施する。

第1回家族サロン

日時 平成30年6月1日（金） 13：30～15：30

場所 伊勢原市役所2階 2C会議室

参加人数 13名（内当事者家族 7名）

【主な議題と内容】

- 1 知っているようで知らない 障がい福祉サービスや制度について（障がい福祉課より）

- ・制度案内を用いながら、手帳・自立支援医療、手当や障害基礎年金、福祉サービスについて説明。
- ・成年後見制度の活用について質問あり。

2 語り合い

- ・息子が福祉サービスにつながり1年経った。これで良かったと思えている。途中、辞めると言い出したが、事業所スタッフの声かけで何とか続けられている。過去のことが、脳にトゲのように刺さっていて、今でも痛み出す。
- ・力を抜く、ほどほどが出来ず、いつも120%の力を出してしまい、へろへろになっている。疲れている時に、甘い物がとても美味しく感じた。食べ過ぎて太ってしまったが、美味しいと感じられることが大事。
- ・2週間前に退院したばかり。薬を飲むようになり、幻聴のことを自分から語るようになってきた。良い変化。
- ・障がい者雇用枠で就労していたが、首になってしまった。
- ・精神疾患と糖尿病がある。ひとつの病院で診ることが出来ず大変。
- ・おれは死ぬしかないんだと言う。本人も苦しんでいるが、親を責める。
- ・20年近く引きこもっている。精神保健福祉相談を2回利用。本人は、なかなか精神科を受診しない。しかし、家族と一緒に5月、人間ドックを受診した。
- ・糖尿病の怖さを伝えても、本人は分からない。
- ・皆さんの話を聞いて、大変だなと感じる。自分の所だけではない。等

*何かが変わる、解決する訳ではありません。大変だ、辛いという気持ちを言葉に出し、同じ立場のご家族から「それは大変でしたね」とねぎらいの言葉が返される。そんな時間を大事にしていきたいと改めて感じる第1回目の家族サロンでした。



第2回精神障がい者ピアのつどい

日時 平成30年6月17日（日） 13:30~15:30

場所 伊勢原シティプラザ 3階研修室

参加人数 15名（内当事者11名） ※初回参加者3名

[主な議題と内容]

1 語り合い

○今回のテーマ

① 趣味について

- ・読書、カード集め、カメラ、料理、日本酒、映画鑑賞、高校野球、歴史探究、カラオケや友人と食事など。
- ・以前やっていた趣味が症状悪化でできない。出来るように、歩いて体力作り。
- ・趣味とは、趣を味わうこと。その人の個性を大事に、色々な趣味を持っていることが分かってとても良かった。
- ・趣味を行うなどして気分転換はとても大事。

② なくなったら困るもの ベスト3

- ・家族（母親、子ども）、パソコン、スマホ、テレビ、通帳、家、お金、スーパー（コンビニ）、移動手段、コーヒー、薬、睡眠、障がい年金、眼鏡、健康、信頼、仲間、仕事、会社、耳かき、爪切りなど
- ～なくなったら困るものの優先付けが面白かった。

○次回のテーマについて

- ・生活にゆとりを持たせる工夫
- ・自分の調子が悪い時のサイン、そしてその対処法

○その他

今回、当事者として参加した市外の方が、就労移行支援事業所の職員であったようで、チラシを配ったり、勧誘の声かけを行っていたことが分かった。チラシに、勧誘などでの参加は断る旨の記載を追加する。

第3回精神障がい者ピアのつどい

日時 平成30年8月19日（日） 13：30～15：30

場所 伊勢原シティプラザ 3階研修室

参加人数 15名 （内当事者10名）

[主な議題と内容]

1 語り合い

○今回のテーマ

①自分の調子が悪い時のサイン、そしてその対処法

- ・ちょっとした物音が気になる。部屋からでない。
⇒水分を摂る。
- ・頭がぼ～っとする
⇒頓服を飲んで、効くまで待つ。
- ・息苦しい、ふらっとする。
⇒静かな所に行く、好きな場所へ出かける。
- ・緊張する、言葉に詰まる。
⇒違うこと、楽しいことを考える。
- ・調子が悪くても対処しない。ずっと悪い状態が続かないことが分かっているのでは



えて触らず。

②生活にゆとりを持たせる工夫

- ・俳句をつくる ・麦茶を自宅で作る ・当事者カルタを参考にしている
- ・まあいっか、誰かが助けてくれると思って気持ちを方向転換・映画を映画館で観る
- ・本を読む ・気持ち、時間、お金にゆとりをもてるよう優先順位をつける など

○次回のテーマについて

- ・夜眠れない時にどうしているか
- ・なくなっても困らないもの ベスト3

○その他

- ・神奈川県障害福祉課の方が見学に来られました。グループワークにも参加していただきました。

※ 福祉新聞に、精神障がい者カルタの記事が掲載されました。

2018年（平成30年）8月6日 4



信条、五七五で発信

精神障害者カルタが好評

神奈川県

「鶴が」大塚寛子 所の新築家務のたけ
 や大塚。鶴が、体
 調を崩し、入院し
 家族に手をかけし
 まう。入院しない
 感動をテーマとし
 も家族への感謝は
 いかに。精神障
 としとの信条を五
 で表した「精神障
 事者カルタ」が神
 県内で話題となっ
 る。海老市市役所
 会衆館の岸田栄子
 ん（右）が作った句を、ま

も、に、就労継続支援
 B型事業所「鶴が」で
 市）に連つ鶴が、障
 が絵を描いて礼にし
 た。カルタは、聖書の
 集まりなどで活用さ
 れ好評を博している
 岸田さん（左）と鶴が
 ウスの利用者ではな
 く、デザインは鶴が
 り、鶴がの支援事業
 業を、鶴がのたけが
 り出し、鶴がのたけ
 を描きつけた人から鶴
 がのたけが、精神障
 害者として、生活
 での経験、17歳
 で100人以上の当
 事者と出会った。生
 活がうまくいっている
 人を鶴がと、なん
 となく仲間が加えてき
 ます」と話す。

は飾らない、鶴がを描いたのがカル
 タの句だ。鶴が、「当
 事者は鶴が」を語
 り、鶴がのたけが
 先代で、鶴がのたけ
 いう、鶴がのたけ
 にもかこ鶴がのたけ
 る、鶴がのたけ
 海だ。鶴がのたけ
 しやべりが
 「鶴がのたけが、
 鶴がのたけが、
 人は、鶴がのたけが
 来は、鶴がのたけが」

エリア情報

第4回精神障がい者ピアのつどい

日時 平成30年10月21日（日） 13:30~15:30

場所 伊勢原シティプラザ 3階研修室

参加人数 9名（内当事者5名）

[主な議題と内容]

1 語り合い

参加者が少なかったため、相談をしてグループ分けせず全員で話し合いを行った。

○今回のテーマ

①夜眠れない時にどうしているか

- ・風の音が不安で不眠～イヤホン使用
- ・カフェイン飲料は午前中にとる。
- ・ポジティブに考える。
- ・本を読む。
- ・入浴は就寝1時間前にする。
- ・あきらめて寝ない。
- ・昼夜逆転を気にしない。開き直る。
- ・YouTubeで眠れるヨガ、ピラティスをやる。
- ・自然にまかせる など…

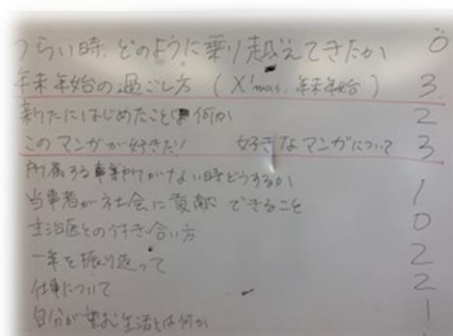


②なくなっても困らないものベスト3

車、タバコ、酒、コーヒー、お菓子、ギャンブル、SNS、原発、宝石、レジ袋、消費税（なくなっても欲しい）、キャッシュレス（お金を使っている実感がない）等



趣味のコーナー



次回話し合いのテーマ決め

第2回家族サロン

日時 平成30年11月2日（金） 10:00~12:00

場所 伊勢原市役所2階 2C会議室

参加人数 17名（内当事者家族 8名）

[主な議題と内容]

1 自己紹介

2 当事者に話しを聞いてみよう ～あんな事、こんな事～

今回は当事者2名（K氏、T氏）にご協力いただき、参加者の家族からの質問に回答していただく形で実施した。

・K氏は原稿用紙にまとめ、T氏は11つの項目に分け、それぞれ自身の病気との歩み、学んだこと、感じたことなど含めた自己紹介をしてくださいました。

<質疑応答の内容（一部抜粋）>

- ・生活費はどのようにして生活しているか。
 - 親からの支援、障害基礎年金、パート収入など。
- ・娘は月6万円程の年金収入しかなく、将来的に経済面で心配。
 - GH入居者はGH補足給付と年金のみでは難しいため、不足分を親が出している。先々まで考えると苦しくなるが、制度も変わっていくだろう。
- ・現在息子は入院中。入院についてお金がかかることを心配していた可能性あり。親の言葉は、理解していても受け入れられないことがある。どんな言葉をかけたら良いのか。
 - 長年言われてきたため、“〇〇がいいんじゃない”が命令に聞こえる。親がこう思っていた、心配だったと伝え続けてくれること、信じてくれていること、待っていてくれることは親しかできない。また、親が楽しんでくれている姿を見ると子どもはホッとするため、楽しんでる姿を見せてあげて欲しい。
 - 年金などの情報があると、本人が安心するのではないか。
- ・引きこもりで病識がないため、医師と相談して、溶ける薬をご飯に混ぜている。今後同胞が里帰り出産するため、赤ちゃんの泣き声にどう反応するか心配。
- ・薬を飲むことは嫌がらず、病気ということを認めていけるようになった。
 - 薬で病気は治らないが、症状は安定する。今以上のことはできない、今できることをやる。
- ・他、入院すると病識ができる、退院前にピアサポーターが病院に訪問にきてもらえると良い等の意見もあった。

家族からどんな質問が出てくるか、その場にならないと分からないため、当事者のお二人は緊張を強いられていたかもしれませんが、それぞれの立場で当事者としての思いを丁寧に答えてくれました。当事者としての貴重な経験談、当事者でしか分からない思いを伺える良い機会であったと感じました。



第5回精神障がい者ピアのつどい

日時 平成30年12月16日（日） 13:30～15:30

場所 伊勢原シティプラザ 3階研修室

参加人数 11名（内当事者6名） ※初参加 1名

[主な議題と内容]

1 語り合い

○今回のテーマ

① 年末年始の過ごし方

- ・季節感がない。自分の生活リズムを楽しむ。食べる量や内容、縄跳びをするなど病気になるようにする。
- ・12月31日まで仕事。休みが長いと休みモードになってしまうため、丁度良い。1月2日、3日は初売りに行く。
- ・9連休。医師から長い休みにしかできないことをするよう助言あり、旅行を計画。
- ・12月31日まで仕事。家の片付けや家族で集まり新年会をする。
- ・家族で過ごす。姉と会う。
- ・12月31日に年越しそばを食べる。
- ・大晦日に紅白を観て、朝まで起きている。
- ・グループホームでおせち作りをする など

②好きなマンガ

- ・手塚治虫の火の鳥、宮崎駿の未来少年コナン、男おいどん、ブラックジャックによるしく、ドラえもん、アルプスの少女ハイジ、タッチ、スラムダンク、ワンピース等様々な作品があがりました。全巻購入した方や、週刊雑誌をコンビニで立ち読みしていたなど読んでいた状況も話題となりました。
- ・マンガに興味がなく、テーマに困ってしまった人もいました。しかし、年代によって注目する作品が違ったり、アニメの話題となったりと、盛り上がりました。

○次回のテーマについて

「お金があったらやってみたいこと」 「大好きな人について」

○その他

- ・今回より、受付名簿に参加したきっかけの欄を新たに設けました。



第2回精神障がい者支援部会

日時 平成31年1月8日（火） 10:00～12:00

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 7名

【主な議題と内容】

1 平成30年度精神障がい者支援部会の振り返りと来年度の取組について

○ピアのつどいについて

- ・定着してきており、参加者が開始時期より自分のことを話すようになった。緊張度が高い方達であるが、リラックスできる空間になってきているのではないかと。
- ・来年度も引き続き年6回実施。

開催日程 偶数月の第3日曜日 午後1時30分～3時30分

会場 伊勢原シティプラザ 3階研修室 ※会場都合により変更の場合あり

- ・申込み制にする案もあったが、申込みがプレッシャーになることもあるため、現状の予約不要とする。
- ・ちらしに写真やイラスト等当事者の作品を載せているため参加者に提供依頼をする。
- ・平成31年度の「ピアのつどい」新たな取組
 - ① 次回テーマ決めの司会またはホワイトボードの板書
 - ② グループワークの司会（立候補がいなければ職員が担当）
 - ③ 第3回目と6回目に体験発表をする（第2回目と5回目の次回テーマ決めの際に参加者に話しを振り、希望があれば実施する）。

○家族サロンについて

- ・平成30年度の第3回目は、通所事業所の保護者会と合同開催を予定していたが、保護者はその事業所の近況を知りたい方が多く、目的が異なるため見送る。
- ・来年度も引き続き年3回実施。精神障がい者を支える事業所連絡会（以下、連絡会）と共催で、平成31年6月にSSTの講演会（講師：高森信子先生）、7月、11月末～12月初旬に家族サロンを開催する。
- ・家族サロンの実施主体を連絡会へ移行することを提案。役割等整理が必要であり、平成31年度を準備期間とする。
- ・主催や連絡先は伊勢原市・連絡会とする。
- ・1回目：講演会（連絡会：チラシ作成。周知：市）
- ・2・3回目：連絡会でのチラシ作成を検討。

司会進行：連絡会

○その他

- ・部会の構成員に入っていなかったGHに、開催通知を送付する。

第6回精神障害者ピアのつどい

日時 平成31年2月17日(日) 13:30~15:30

場所 伊勢原シティプラザ 3階研修室

参加人数 11名(内当事者7名)

[主な議題と内容]

今回は2グループに分かれ、2つのテーマで話し合いました。

○今回のテーマ

① お金があったらやってみたいことについて

- ・家を建て直す、家を買う、宇宙へ行く、いい男と出会う、結婚する、雀荘を作り(麻雀のみでなくゲームができ、PSWを置いて相談や話ができる場所) お金が無くなったら閉店する、福祉の整ったデンマークに2年留学、50万の健康器具を買う、自己流の生活ができる部屋を作る、仕事を辞めて海外旅行、大株主か大地主になって家賃運用して温かいマレーシアで暮らし、日本にはプライベートジェットで往来する、夢であった医学部に入るなど。

~現実適な内容から夢のある話までとても盛り上がりました。楽しかったとの感想をいただきました。

② 大好きな人について

- ・母親、彼女(てんかんと付き合いながら仕事や生活面でどうしていくと良いかアドバイスをくれたり、自分のアドバイスも聞いてくれ、大好きで尊敬している)、自分を好きになりたい、包容力のある人(温かく包める)になってみたい、デイケアスタッフ、仕事で関わる全ての人、中野信子氏(脳科学)、林修氏、氷川きよし氏、歌手GLAY、熊、犬など。

~大好きにはLOVE、LIKE、RESPECT様々なものがあること、その人がいるから幸せに過ごせるという感想をいただきました。

○次回のテーマについて

- ・自分が望む生活とはなにか
- ・家族との付き合い方

○その他

- ・一人の発言に賛同するなどして意見を出し合い、共有することができた。
- ・ピアのつどいを卒業された方もおり、参加者が少なくなっているため、周知を工夫する。病院に配布しているが、デイケアに送付する(既に通所をしている人の方が参加しやすいのではないか) 提案あり。
- ・時間配分、マイクなどタイミングが良かった。
- ・次年度はテーマ決めの司会 or 書記を参加者に依頼。様子を見てグループワークの進行ができるか様子を見ていく。

第3回家族サロン

日時 平成31年3月5日（火）13：30～15：45

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 17名（内当事者家族 9名）

[主な議題と内容]

○スタッフや同じ悩みを抱える家族との語り合い

- ・子どもが自宅に退院して現在医療機関通院中。幻覚は見えなくなったが、気持ちの悪い音楽は聞こえる。退院時は歩いていたが、だるくて立っていられず、横になっている。
- ・医師に自分の考えを伝えるようになったことは良い傾向ではないかと思っている。
- ・薬について知識がないため、医師の指示通りに対応している。一包ずつになっており、本人が毎日飲めている。
- ・体調不良を訴え、医療機関受診をするが、異常はないとの結果を繰り返していた。薬を飲まずに10年経過。保健所のアウトリーチ事業で医師が月1回、半年訪問。その医師と相性が良かったことから、自ら服薬を開始した。現在も定期的に受診している。親としては、年を重ねてからの将来について心配がある。
- ・浪人中に底付き体験をし、不安定となった。母が用意した薬を飲み、楽になった実感を感じたことで服薬を開始。20年以上飲んでいいる。服薬することに罪悪感を感じるようで、調子が良くなると減らしてしまうことがある。
- ・抗精神病剤、安定剤の3種類服用。母が介入することを嫌がる。8か月の断薬で統合失調症の症状が悪化。母との口論ののち意識障害がおき、救急搬送されるが、本人が「ここは怖い」と拒否があり、今後の関係性を重視し、精神科への入院対応にはならなかった。大きな衝突を境に関係性が良い方向に変化した。発症の理由は政府にはめられたと今も話すが、デイケア→事業所通所→週2日清掃業務の就労についている。自分の取扱い説明書を作成し、会社に理解してもらおうツールとしている。
- ・相談員の家庭訪問も顔を合わせることができない。2か月に1回内科へは通院している。
- ・服薬して起きたことを医師に素直に報告すること、主治医を信頼することが大切。
- ・グループホームでは、病院に伝えたいことをきちんと伝えられない時は、事前にメモに書くことを勧めたり、病院同行、病院へ電話連絡することがある。
- ・内科受診が好きな方がいるが、心配なことをクリアにすることで安心できる。
- ・何かのきっかけで本人から気持ちや考えがわき出てくることもある。その時上手く拾って大事にしていけると良い。

*今回は服薬の話が中心となりました。また、それぞれの家庭で本人との関わり方など悩みがあり、今現在悩んでいる方、過去に似た出来事があった方など共有することができました。すぐに何かが変わる、解決することではありませんが、大変だ、辛いという気持ちを言葉に出し、同じ立場のご家族と繋がれる場を大切にしていきたいと感じました。

当事者部会

第1回当事者部会

日時 平成30年6月5日（火） 13:30~15:30

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 21名（内手話通訳者2名、ガイドヘルパー1名、付添支援者2名）

[主な議題と内容]

1 部会長選任について

昨年度からの継続で、視覚障がいの早乙女氏にて承認

2 平成30年度当事者部会の取り組みについて

(1) 社会福祉協議会主催「子ども防災講座（石田小学校生徒対象）」

7月31日（火） 午前9時~12時30分 大田ふれあいセンター、消防署南分署

内容 講話・はしご車乗車体験・放水体験・卵の殻によるガラス体験・少ない水での洗濯体験・車椅子体験・盲導犬利用者のお話・ミニ手話講習・ふれあい体験等

※当日ご協力いただける当事者の方

6月12日（火）午後1時30分~市役所2C会議室「災害時支援部会」にて事前説明

(2) 総合防災訓練

（予定）8月26日（日）午前8時30分~正午予定 ※全地域対象

地域差がある→障がい者が参加すると邪魔かな？と感じる。役員から声かけがあると参加しやすい。

(3) 障害者週間街頭キャンペーン

12月4日（火） 午後1時~午後2時予定 伊勢原駅前

- ・受け取る側の意識がなく、これ何？という印象。分かりやすい表示があるとよい。
- ・ビブスなどを付けて障がい者だと分かるようにしてはどうか。障がいは個性なので、出すことは悪いことではない。
- ・受け取らなくても仕方がないと割り切ることも大事。気にせずやっていく。

(4) 第5期障がい者計画等「わかりやすい版」の作成について

- ・計画の点字を送付して欲しい。
- ・イラストが入るといい。
- ・他市の物も参考にしてみる。

→事務局で案を作成し検討していく。

(5) 食事会兼まち点検の実施について

- ・実施していきたい。まち点検のグループを半分に分けたり、くるりん（駅前）で食事をする案が出される。次回、部会で詳細を決める。

(6) 当事者部会員の体験発表会の実施について

- ・当事者間の理解が深まるため、実施していく。

(7) 市職員に対する点訳講習会の実施について

- ・点字がどのようなものか、市職員に知っていただきたい。
 - ・読みにくい点字が送られてくる。自動点訳は読みにくいことを知って欲しい。
- 職員課と事務局で調整。

3 その他

- ・防災センターの見学～リニューアルしたこともあり、見学会を実施して欲しい。
- 災害時支援部会と調整

次回：第2回当事者部会 7月9日（月）午前10時～正午 場所 市役所2階2C会議室

第2回当事者部会

日時	平成30年7月9日（月） 10:00～12:00
場所	伊勢原市役所 2階 2C会議室
参加人数	14名（内手話通訳者2名、ガイドヘルパー1名、付添支援者2名）

[主な議題と内容]

1 障がい者差別解消法に関する事例について

～自身が感じた差別、あって欲しい合理的配慮について～

◎グループによる意見交換

- ・平塚七夕祭りでコーヒーを飲み喫茶店に入ったが車椅子なので断られた。
- ・20年くらい前だが、戸塚駅で障害者は一人で来るなと駅員に言われた。今は一人で電車に乗っている。
- ・50年前に駅に点字ブロックができたが、死亡事故などが多いので今はホームドアができた。犠牲がないと動かない。
- ・駅員さんが誘導してくれる。
- ・飲食店で盲導犬の受入拒否があり、混んでる時間はずらしてくれと言われた。
- ・視覚障害は自署するのが大変。銀行員も昔は拒否していたが、今は代筆してくれる。
- ・郵便局も代筆してくれるようになった。
- ・名古屋城のエレベーター設置に関する件。
- ・盲導犬は店の前で待つということはない。ペットではない。
- ・資料が点字でないのが差別にあたる。
- ・昔は、手話は日本語ではないと言われていたが、手話に対する差別はなくなった。
- ・言われたことが差別だとその場では気づかない。
- ・差別解消法が知られていない。
- ・会社の上司は分かっているけど部下が分かっていない。
- ・陰口を言われるといやな思いがある。
- ・差別をしてるという認識でやっている人はいない。
- ・不燃物のビンを色分けするが、ゴミ出しの箱に分かるように表示してほしい。

- ・おつりなどを同行者に渡されてしまう。
- ・駅で駅員さんが案内してくれるが、新宿駅などでは私鉄はいいが、JRは駅員がなかなか来ない。
- ・駅が改装され、張り紙での周知はあったが、その他の方法での周知がなかったため、駅に苦情を言ったところ、車内放送で周知されるようになった。
- ・中央公民館前の交差点で、音声信号がうるさいからと止められてしまった。
- ・視覚障害にとってスクランブル交差点はわかりづらい。
- ・社協が作った点訳の書類が全然読めなかったため、苦情を言ったら障がい福祉課で作成した物だと言われた。

◎差別解消法施行等の影響で、改善している点も多いようです。しかし、意識していない差別や対応が難しい内容が、まだまだあることが分かりました。差別解消協議会に報告し、検討をしていただく予定です。



子ども防災講座(第2回災害時支援部会)

日時	平成30年7月31日(火) 8:30~12:00
場所	大田ふれあいセンター・南分署
参加人数	講座参加者(小学生、未就学児及び保護者) 19名 障がい当事者 6名、部会員・手話通訳・障がい関係スタッフ 7名 社会福祉協議会関係スタッフ 約15名

※災害時支援部会活動報告書 参照

総合防災訓練(第3回災害時支援部会)

日時	平成30年8月26日(日) 9:00~12:00
場所	桜台小学校
参加人数	【桜台小学校】 約300名(内災害時支援部会より1名、当事者4名、手話通訳者2名、ガイドヘルパー1名、いせはら介護支援専門員協会10名)

※災害時支援部会活動報告書 参照

第3回当事者部会(まち点検)

日時	平成30年11月5日(月) 10:00~13:00
場所	伊勢原駅~市役所周辺、来るりん(昼食会)
参加人数	20名(内当事者13名、手話通訳者1名、ガイドヘルパー2名、付添支援者2名、市職員2名)

[主な議題と内容]

1 まち点検

当事者の視点で、バリアフリーに関する問題点や課題を把握するため、まち点検を実施。

《参加当事者》

身体障がい者：肢体不自由1名、視覚障がい者4名、聴覚障がい者2名、内部障がい1名

知的障がい者：3名

精神障がい者：2名

《点検場所》

コース① 伊勢原駅北口⇒北口駅前バス停⇒商店街⇒大神宮⇒伊勢原交差点(折り返し)
⇒商店街⇒伊勢原駅北口 売店前

コース② 伊勢原駅北口⇒伊勢原農協前⇒市役所(休憩)⇒伊勢原農協前⇒スーパーOK
⇒市営駐車場前⇒伊勢原駅北口 売店前

《まち点検による意見のまとめ》

【歩道】

- ・歩道を走る自転車が危険。ベルを鳴らしてスピードを落とさず走る。追い越される時が特に怖い。降りて歩いてくれるといい。
- ・歩道の車乗り入れ部など車道側に向かって傾斜しているか所があり、車椅子や歩行者が通行しづらい。
- ・看板が歩道に出ている箇所があった。



- ・視覚障がい者や歩行が困難な人が介助者と並んで歩いたり、車椅子を押して歩くには、幅が狭い歩道がある。

- ・車道から歩道に車が急に入ってくることもある。
- ・歩道に車止めのポールがあり、ぶつかった（伊勢原駅北口からOKストア間）。
- ・歩道と車道の間にあるセーフティブロックは、車椅子利用者には滑り止めになるものだが、視覚障がい者はつまづくことがある。



【交差点・信号機等】

- ・障がい者や高齢者は、歩行速度が遅いため、渡りきれないことがある。それを考慮した歩行者用青信号時間に設定してほしい。
- ・伊勢原駅北口の四叉路や市役所周辺など信号がない路地で、色々な方向から車や自転車がでてくるので危ない。
- ・信号機の音声メッセージが、青信号の時のみの箇所がある（伊勢原駅入り口交差点）。

【誘導・案内】

- ・伊勢原駅北口に新設された（仮設）バスロータリーの、バス進入ランプとブザーの反応が遅い。誘導の警備員は配置されていた。
- ・（仮設）バスロータリーのガードレールが茶色で、弱視の方や高齢者には見えにくい。
- ・バスのステップは、車道と歩道の段差を考慮した設計になっているが、（仮設）バスロータリーのバス降車場所は平坦であり、段差が大きくなってしまふ。

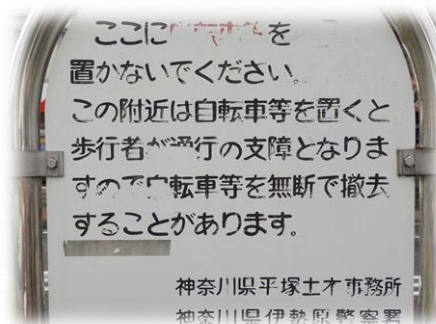


- ・北口に設置している広域避難所の案内が見にくく、中沢中学校までの経路も分からない。
- ・商店街の点字ブロックが、駅北口からブックオフまでしか設置がない。

- ・伊勢原シティプラザや中央公民館など、よく利用する建物の案内表示がない。
- ・案内看板に読めない漢字がある。印字が消えていて読めない。

【建築物等】

- ・市民文化会館から市役所正面玄関に向かうアプローチについて、段差が分かりにくい。
- ・図書館前の点字ブロックが汚れており、弱視の方は見えにくい。
- ・伊勢原シティプラザ正面玄関前の車止め収納部分が凹んでいる。



【道路】

- ・道路の凸凹により、走行中の車の音が大きく響く。
- ・濡れると眩しい種類のアスファルトがある。

【踏切】

- ・踏切内の凹みに、車椅子の前輪がはまることがある。

【配慮されていて良かった点】

- ・点字ブロックの上に、物が何も置かれていなかった。
- ・歩道が広くとってあり、通行しやすい箇所があった。
- ・歩道から店の入口まで点字ブロックが設置されている店舗があった。

2 昼食会

まち点検終了後、伊勢原駅北口にある「来るりん」で昼食会を行いました。当事者の皆さん同士で食事をしたり、おしゃべりする機会を作って欲しい！とのご要望が高かった中、やっと実現出来ました。皆さんと一緒に食べると、やっぱり美味しいですね～。

自身の障がいのことだけでなく、他の障がい者のことも配慮し、当事者同士で声を掛け合える当事者部会の皆さんの姿に、心が温くなりました。障がいの違いによって、利害が生じることあることに気づき、お互いの障がいを理解しながら、声かけしていくことが必要です。



第4回当事者部会

日時 平成31年1月9日（水） 13:30～15:30

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 17名（内手話通訳者2名、ガイドヘルパー1名、付添支援者1名）

【主な議題と内容】

1 まち点検の実施内容について

報告書の内容に基づき振り返り。

（追加内容）

- ・白線が消えかかっている箇所があり、弱視には危険。
- ・伊勢原小学校入口交差点：歩行者の青信号時間が短く、渡りきれない。
- ・以前に比べると、点字ブロックの上に物が無い。
- ・お互い様という気持ちで、住みやすさにつながる。

（今後について）

- ・報告書を作り、ホームページなどで市全体への周知や、関係機関に伝えていく。市の窓口として、道路整備課・国県事業対策課・市民協働課 交通防犯対策係があるので、当事者が直接報告できる場を検討する。

2 次回当事者部会内容について

- ・市関係部局に向けて、まち点検内容の報告。
- ・当事者発表（内部障がい、視覚障がい）

3 平成30年度の振り返り及び平成31年度の取組について

- ・防災センターの見学（災害時支援部会と共催）
- ・災害時要援護者支援の勉強会（市の取り組みや方針等）
- ・総合防災訓練への参加

4 その他

- ・差別解消フォーラム（1/21）のご案内
- ・当事者部会参加に対する謝礼について

第5回当事者部会

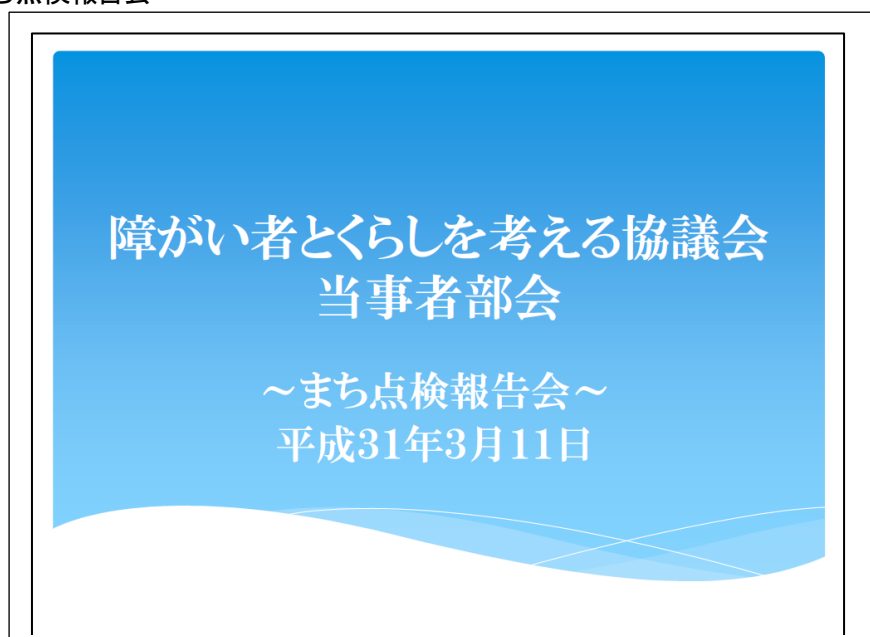
日時 平成31年3月11日（月） 10:00~12:00

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 22名（内手話通訳者 2名、ガイドヘルパー 1名、付添支援者 1名）

[主な議題と内容]

1 まち点検報告会



11月5日に実施したまち点検の内容を、庁内関係部局のみなさんに報告しました。ご参加いただいた部局は、まちづくり推進課、国県事業対策課、道路整備課、市民協働課交通防犯対策課です。事務局から、まち点検で気が付いた点、改善して欲しい箇所、危険と感じる場所など当事者の皆さんと確認した内容を写真と共にお話ししました。当事者のみなさんからも、直接担当者に伝えていただき、より具体的になったと思います。

この報告会を通じて、障がい当事者と市役所の距離が少し縮まったように感じます。障がいがあってもなくても、共に暮らしやすいまちづくりを目指し、当事者部会として出来ることを積み重ねていきたいと思っています。

2 当事者体験発表会

今回は、内部障がい（オストミー）の方からの発表でした。大腸がんの手術をされ、オストミー（人工肛門）となり、40年になるそうです。ストーマ袋（パウチ）の実物を持参していただき、排便の方法をわかりやすくお話ししていただきました。排便のコントロールは非常に難しく、食事や薬での調整にご苦労が多かったようです。見た目では分かりにくい障がいであり、私たちも知らないことばかりでした。今後も、当事者間での障がい理解を深めていきたいと思っています。